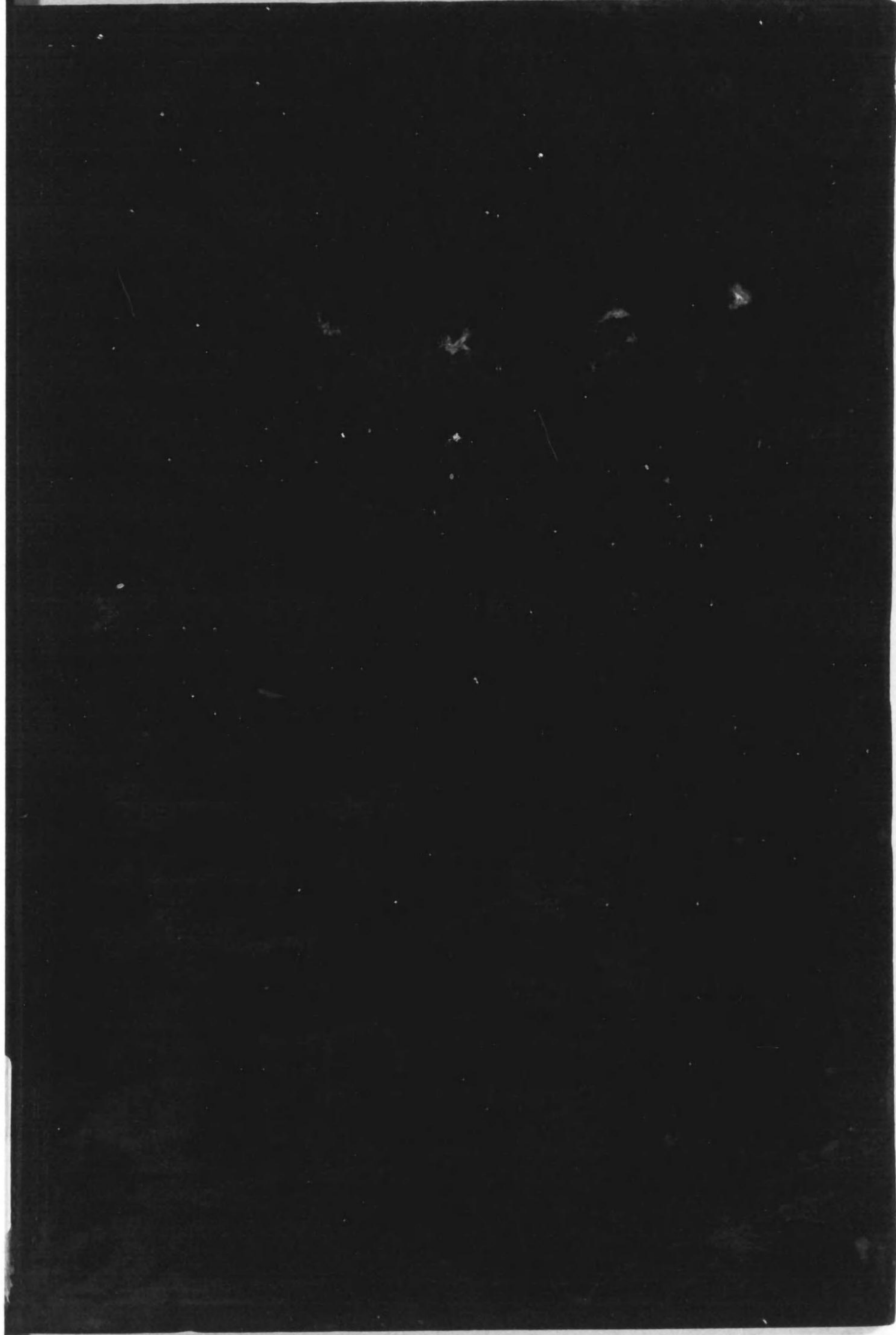
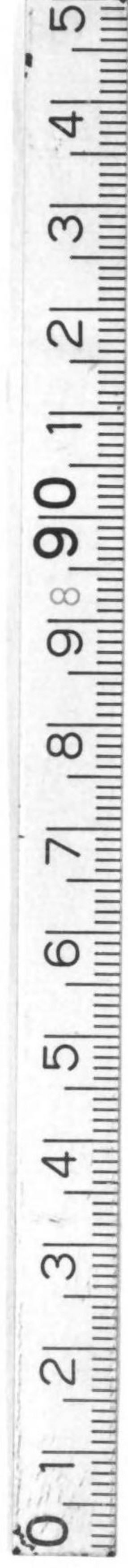




始



特225  
602

**Deutsche Grammatik**

in

24

**Stunden**

新獨逸文法  
廿四時間整理

小村 實著



## 序 文

獨逸語の初學者たると履修者たるとを論ぜず、又使途の教材たると参考書たるとを問はず、本書の目的は雜然たる獨逸文法を、統括整序し、短期間のうちに、自學自修により、獨逸文法の全貌を知らしめんとするにある。

内容は嶄新を期し、品詞の活用、變化形式等に就いては、著者は飽くまで現代の生ける獨逸語に即して講述した。

幸にして本書が獨逸語を修得せんとする諸氏の研學の一助ともならば著者の幸甚とする所である。

著 者

# 新獨逸文法 廿四時間整理

## 目次兼索引

第一講	文法	1
	I. 品詞の概観	1
	變化詞	2
	不變化詞	2
	性數格	2
	II. 冠詞	3
	定冠詞	3
	不定冠詞	4
	III. 名詞	4
	名詞の變化	4
第二講	強變化	5
	弱變化	9
第三講	強變化、弱變化の相違點	11
	名詞變化の共通點	11
	混合變化	11
	外來語名詞變化	13
	固有名詞變化	14
第四講	~~~~名詞の例題~~~~	16
	名詞の性	17
第五講	IV. 代名詞	21

	代名詞の種類 . . . . .	21
	人稱代名詞—再歸代名詞 . . . . .	22-23
	物主代名詞 . . . . .	24
第 六 講	指示代名詞 . . . . .	27
第 七 講	疑問代名詞 . . . . .	33
	關係代名詞 . . . . .	35
第 八 講	不定代名詞 . . . . .	38
	~~~~代名詞の例題~~~~ . . . . .	41
第 九 講	V. 形容詞 . . . . .	43
	形容詞の變化 . . . . .	43
	強變化 . . . . .	44
	弱變化 . . . . .	45
	混合變化 . . . . .	47
第 十 講	形容詞の名詞化 . . . . .	49
	形容詞の比較 . . . . .	50
	形容詞の格支配 . . . . .	52
	~~~~形容詞の例題~~~~ . . . . .	53
第 十 一 講	VI. 數 詞 . . . . .	55
	定數詞 . . . . .	56
第 十 二 講	不定數詞 . . . . .	61
	~~~~數詞の例題~~~~ . . . . .	63
	VII. 動 詞 . . . . .	64
	動詞の種類 . . . . .	{ 64 100
	自動詞、他動詞、再歸動詞: . . . . .	101
	非人稱動詞 . . . . .	105

	動詞の變化 . . . . .	65
第 十 三 講	動詞の基礎變化 . . . . .	66
	弱變化 . . . . .	66
	強變化 . . . . .	66
	混合變化 . . . . .	68
	不定法、過去、過去分詞の用法 . . . . .	69
第 十 四 講	動詞の活用變化 . . . . .	71
	時による變化 . . . . .	71
	態形による變化 . . . . .	80
	話法による變化 . . . . .	85
	話 法 . . . . .	85
	話法の種類 . . . . .	85
	直接法 . . . . .	85
	接續法 . . . . .	85
	條件法 . . . . .	96
	間接話法 . . . . .	97
	命令法 . . . . .	98
	接續法 . . . . .	85
	接續法の動詞の時の變化 . . . . .	86
	接續法の「時の助動詞」の變化 . . . . .	87
	接續法の時稱 . . . . .	87
	接續法の用法 . . . . .	93
	助 動 詞 . . . . .	73
	時の助動詞 . . . . .	73
	話法の助動詞 . . . . .	88
	直接法に於ける話法の助動詞の變化 . . . . .	89

	接続法に於ける話法の助動詞の變化 . . . . .	90
	話法の助動詞の用法 . . . . .	91
	動詞の格支配 . . . . .	101
	組立動詞 . . . . .	105
	~~~~動詞の例題~~~~ . . . . .	75
	I. 現在、過去、未來 . . . . .	75
	II. 現在、過去、未來の完了形 . . . . .	79
	III. 受動形 . . . . .	84
	IV. 話法 . . . . .	99
第十九講	. . . . .	101
第二十講	VIII. 副詞 . . . . .	108
	副詞の種類 . . . . .	108
	副詞の比較變化 . . . . .	110
	~~~~副詞の例題~~~~ . . . . .	111
第二十一講	IX. 前置詞 . . . . .	113
	前置詞の格支配 . . . . .	113
	~~~~前置詞の種類~~~~ . . . . .	117
第二十二講	X. 接続詞 . . . . .	119
	接続詞の種類 . . . . .	119
	對立接続詞 . . . . .	119
	從屬接続詞 . . . . .	121
	~~~~接続詞の例題~~~~ . . . . .	122
	XI. 感嘆詞 . . . . .	124
第二十三講	XII. 文章論 . . . . .	125
	文章の成分 . . . . .	125
	配語法 . . . . .	127

	~~~~配語法の文例~~~~ . . . . .	182
第二十四講	XIII. 聲音論 . . . . .	130
	發音 . . . . .	130
	綴音 . . . . .	134
	アクセント . . . . .	135
	文字 . . . . .	135

# 新獨逸文法 廿四時間整理

## 第一講

### **文法** (Grammatik)

文法とは一つの言語を正確に話し又は書くに必要な一切の規則を意味します。それでは一つの言語を誤りなく書き又は話すには、如何なる學問が必要であるか申しますと、一般に之を次の三科目に分けてゐます。

1. 詞論 (Wortlehre)
2. 文章論 (Satzlehre)
3. 聲音論 (Lautlehre)

此の中文章論及び聲音論の深き研究は、言語學者の携はる問題でありまして、實用的價值に乏しい故、本講義に於きましては詞論を主とし、文章論聲音論に就きましては、その主要な點のみ説明することに止めました。

### 詞論

#### I 品詞の概観 (Übersicht der Wortarten)

獨逸語の品詞を述べるに當り、先づ品詞の變化の一般的性質を知つておく必要があります。

品詞の中には變化するものと、變化しないものがあります。

之を大別して次の二種となします。

**A. 變化詞** { I 名詞的變化詞 (deklinierbare Wörter)  
II 動詞的變化詞 (konjugierbare Wörter)

I 名詞的變化詞に屬するもの：

1. 名詞 2. 冠詞 3. 代名詞 4. 形容詞 5. 數詞

II 動詞的變化詞に屬するものは動詞のみであります。

**B. 不變化詞**

1. 副詞 2. 接續詞 3. 前置詞 4. 感嘆詞

**性、數、格 (Genus, Numerus, Kasus)**

只今申上げました五種の名詞的品詞の變化の何れに於きましても、性と數と格との三つが最も重要な問題となつてゐます。此等の問題に就きましても各品詞の項、特に名詞の項に於て充分説明してありますから、こゝでは單にその概要を示すことに止めておきます。但し獨逸語に於ける性、數、格は英語に於けるそれより遙かに重要性を帯びてゐることに注意せねばなりません。

1. 性 (Genus 又は Geschlecht)

男性 (Maskulinum 略して M. 例、der Tisch 机)

女性 (Femininum " F. 例、die Feder 筆)

中性 (Neutrum " N. 例、das Buch 本)

2. 數 (Numerus 又は Zahl)

單數 (Singular 略して Sg. 例、der Tisch)

複數 (Plural " Pl. 例、die Tische)

3. 格 (Kasus 又は Fall)

第一格 (Nominativ 略して N. ……が(は))

第二格 (Genitiv " G. ……の)

第二格 (Dativ " D. ……に)

第四格 (Akkusativ " A. ……を)

第一格は英語の nominative 第二格は possessive 第三格及び第四格は objektive に該當します。

**II 冠詞 (Artikel 又は Geschlechtswort)**

冠詞とは名詞の性を示し、且つその意味を明確にする言葉であります。獨語では性詞 (Geschlechtswort) と云つてゐます。冠詞は英語と同じく之を定冠詞と不定冠詞との二種に分ちます。

**定冠詞** (bestimmter Artikel. der, die, das)

變化形式

	Sg.			Pl.
	M.	F.	N.	M.F.N.
N.	der	die	das	die
G.	des	der	des	der
D.	dem	der	dem	den
A.	den	die	das	die

- 註 1. 複數の定冠詞は三性とも共通であります。  
2. 女性、中性及び複數は一格と四格と同形です。  
3. 男性と中性、女性と複數形とは似てゐる故比較して記憶する必要があります。  
4. 定冠詞は指示代名詞又は關係代名詞としても用ひられます。  
5. 定冠詞並に次に述べる不完冠詞の實例は名詞の項に譲ります。

**不定冠詞** (unbestimmter Artikel. ein, eine, ein)



## 變化形式

	Sg.			Pl.
	M.	F.	N.	M.F.N.
N.	ein	eine	ein	欠
G.	eines	einer	eines	
D.	einem	einer	einem	
A.	einen	eine	ein	

## 註 一不定冠詞の欠陥—

1. 不定冠詞の變化形式は定冠詞と略同様ですが、不定冠詞では男性及び中性の第一格が同形である爲、次に來る名詞の性を定めることが出来ません。例へば ein Mann (男性—或る男) と ein Kind (中性—或る子供) に於て、性の識別がつかないが如きであります。それ故この兩性を區別せんとするには常に定冠詞を引用せねばなりません。—der Mann, das Kind.
2. 不定冠詞には複數形が欠如してゐます。それ故例へば ein Kind の複數を作らんとするには、單に Kind 丈の複數形を用ひて Kinder とします。獨逸の文法學者の中には之を禿頭形と云つて皮肉ぶつてゐる人があります。
3. 不定冠詞に以上二つの欠陥があります爲、他の品詞例へば形容詞、物主代名詞等の如く不定冠詞の語尾に似た變化を感じる際に、複雑と曖昧とを齎らす虞がありますから、特に注意して記憶されんことを願つておきます。

## III 名詞 (Substantiv 又は Hauptwort)

## 名詞の變化

凡ての變化詞に於て最も重要な役割を演ずるものは、云ふ迄もなくそれ等品詞の變化形式であります。

名詞の變化とは名詞の性、數、格に應じて名詞の語尾又は幹母音に多少の異動の行はれることを意味します。

今之を一般の分類法に従ひ五種に分けて説明することにします。

- A. 強變化 (starke Deklination) } 第一式  
第二式  
第三式
- B. 弱變化 (schwache Deklination)
- C. (強弱) 混合變化 (gemischte Deklination)
- D. 外來語名詞變化 (Deklination der fremden Substantive)
- E. 固有名詞變化 (Deklination der Eigennamen)

以上五種の變化の中、強變化及び弱變化は凡ての名詞の基礎的變化形式を示すものであります。

## 第二講

## A. 強變化

## 第一式

	Sg.	Pl.
N.	_____	(*)
G.	_____s	(*)
D.	_____	(*) n
A.	_____	(*)

- 註 1. —は常に單數第一格、即ち未だ何等の變化を受けざる原形を示します。
2. (\*) は第一格の幹母音 a, o, u, が ä, ö, ü に變音する場合もあることを表してゐます。この變音されたものを變母音又は曲音と云ひます。

例	單	數	複	數
第一格	der Lehrer,	der Vater	die Lehrer,	die Väter
第二格	des Lehrers,	des Vaters	der Lehrer,	der Väter
第三格	dem Lehrer,	dem Vater	den Lehrern.	den Vätern
第四格	den Lehrer,	den Vater	die Lehrer,	die Väter

註 1. Lehrer 先生、Vater 父。

2. 第一式は強變化の中でも變化形式の最も簡易なものであります。

3. 女性名詞は單數に於ては決して變化しません。

#### 強變化第一式に屬する名詞：

- er, el, en の語尾を有する男性名詞の大部分及び中性名詞、  
(der Schuler 生徒、das Fenster 窓、der Onkel 伯父、  
das Mittel 手段、der Morgen 朝、das Essen 食事)
- chen, lein の縮小綴（語尾に附加して小さい又は可愛い、  
意味を表す）を有する中性名詞、  
(das Mädchen 小女、das Häuschen 小さい家、  
das Mütterchen お母ちゃん、das Fräulein 令嬢)
- Ge の前綴と e の語尾を有する中性名詞、  
(das Gemälde 繪畫、das Gebirge 山脈)
- 二個の女性名詞、  
(die Mutter 母、die Tochter 娘)

#### 例解

- der Bruder des Vaters [父の兄弟]
- die Fenster (Sg. das Fenster) des Zimmers [室の窓]
- ein Fräulein in dem Garten [庭園の少女]
- Die Gemälde (Sg. das Gemälde) gehören den Schülern  
(Sg. der Schuler). [繪は生徒達に屬する]

- Die Mutter liebt die Töchter (Sg. die Tochter). [母は娘達を愛する]

#### 第 二 式

	Sg.	Pl.
N.	_____	(*) e
G.	_____ (e)s	(*) e
D.	_____ (e)	(*) en
A.	_____	(*) e

註 第二式及び第三式に於ける單數三格の e は、會話にありては寧ろ省略される方が多く、又正書法の規定によつて使用してはならない場合があります。

#### 例 單 數

第一格	der Tisch,	der Sohn
第二格	des Tisches,	des Sohn(e)s
第三格	dem Tisch(e),	dem Sohn(e)
第四格	den Tisch,	den Sohn

#### 複 數

第一格	die Tische,	die Söhne
第二格	der Tische,	der Söhne
第三格	den Tischen,	den Söhnen
第四格	die Tische,	die Söhne

(Tisch 机、Sohn 息子)

#### 強變化第二式に屬する名詞：

- 多數の男性名詞。  
(der Hut 帽子、der Stuhl 椅子、der Arzt 醫師、  
der Gast 客——以上變母音をとる)

der Berg. 山、der Tag 日、der Besuch 訪問——變母音をとらず)

2. 少数の中性及び女性名詞。  
(das Geheimnis 祕密、das Tor 門、die Frucht 果實、die Stadt 都市)

例解.

- die Söhne (Sg. der Sohn) des Arztes [醫師の息子達]
- die Nachricht (Sg. die Nachricht) des Ereignisses [事件の報知]
- die Hüte (Sg. der Hut) auf dem Tische [机上の帽子]
- Ich melde den Freunden (Sg. der Freund) meine Absicht. [私は友人に私の意向を告げる]
- Er fürchtet den Hund. [彼は犬を怖がる]

### 第三式

	Sg.	Pl.
N.	_____	_____er
G.	_____ (e)s	_____er
D.	_____ (e)	_____ern
A.	_____	_____er

例 單 數

第一格 das Kind, das Buch  
第二格 des Kind(e)s, des Buch(e)s  
第三格 dem Kinde, dem Buche  
第四格 das Kind, das Buch

複 數

第一格 die Kinder, die Bücher

第二格 der Kinder, der Bücher

第三格 den Kindern, den Büchern

第四格 die Kinder, die Bücher

註 1. Kind 子供 Buch 書物。

2. 第三式の變化に屬する名詞は複數に於て盡く變母音となります。

強變化第三式に屬する名詞:

1. 中性名詞の大部分。  
(das Haus 家、das Dorf 村、das Feld 畑、das Geld 金、das Bild 繪、das Kleid 着物)
2. 約十個の男性名詞。  
(der Mann 男、der Gott 神、der Wald 森)

例解.

- die Häuser (Sg. das Haus) des Dorfes [村の家々]
- das Kleid des Kindes [子供の着物]
- die Männer (Sg. der Mann) auf den Feldern (Sg. das Feld) [畑にゐる男達]
- Ich schenke die Bilder (Sg. das Bild) den Kindern (Sg. das Kind). [私は子供達に繪を與へる]

B. 弱變化

### 變化形式

	Sg.	Pl.
N.	_____	_____ (e)n
G.	_____ (e)n	_____ (e)n
D.	_____ (e)n	_____ (e)n
A.	_____ (e)n	_____ (e)n

例	單	數
第一格	die Blume,	der Held
第二格	der Blume,	des Helden
第三格	der Blume,	dem Helden
第四格	die Blume,	den Helden
	複	數
第一格	die Blumen,	die Helden
第二格	der Blumen,	der Helden
第三格	den Blumen,	den Helden
第四格	die Blumen,	die Helden

註 1. Blume 花、Held 英雄。

2. 單數第一格以外は盡く (e)n の語尾をとり、複數に於ても強變化の如く變母音となることは絶対にありません。

#### 弱變化に屬する名詞：

1. 女性名詞の大部分。  
(die Tür 戸、die Schwester 姉妹、die Jugend 青年、die Freundin 女の友達、die Freiheit 自由)
2. 綴音の少き小數の男性名詞。  
(der Mensch 人間、der Affe 猿、der Bote 使者)

#### 例解

- die Uhren (Sg. die Uhr) der Damen (Sg. die Dame) [婦人方の時計]
- die Freiheit der Menschen (Sg. der Mensch) [人間の自由]
- Die Frauen stehen vor den Türen (Sg. die Tür) der Wohnungen (Sg. die Wohnung). [婦人達は住宅の戸の前に立つてゐる]

## 第 三 講

前にも申上げた通り、強變化及び弱變化は凡る名詞變化の基礎形であると共に、本來の獨逸語の名詞はこれ等何れかの變化に大體屬してゐます。今この變化形式の記憶を便にせんが爲、兩者の相異點と名詞變化の共通點とを申上げることにします。

#### 強變化並に弱變化の相異點

	單 數	複 數
第一格	—	{ <sup>(*)</sup> , <sup>(*)</sup> e, — er(強變化) — (e)n(弱變化)
第二格	{ — (e)s(強變化) — (e)n(弱變化)	

即ち強變化の單數、第二格は語尾 s に終り、複數第一格は三種の變化形式をもつてゐます。弱變化は單數第二格複數第一格共に (e)n の語尾をとります。

單に強變化、弱變化の名詞に限らず、凡ての名詞の變化に於て最も留意すべき點は、單數第二格と複數第一格の語尾變化であります。この二個の語尾變化によつて、名詞は何れの變化様式に屬するかを知ることが出来ます。それ故何れの字書を見ても名詞の次に、この二つの語尾變化が掲げられてあります。

#### 名詞變化の共通點

- 1 凡ての女性名詞は單數に於て變化しません。
- 2 凡ての名詞の複數一格、二格、四格は同形であります。
- 3 凡ての名詞は複數三格に於て n の語尾をとります。

#### C. 混合變化

混合變化とは強變化と弱變化との混合した變化であります。即

ち単数にては強變化に、複数にては弱變化に従ひます。

變 化 形 式

	Sg.	Pl.
N.	_____	_____ (e)n
G.	_____ (e)s	_____ (e)n
D.	_____ (e)	_____ (e)n
A.	_____	_____ (e)n

例	單 數	複 數
第一格	der Staat	die Staaten
第二格	des Staat(e)s	der Staaten
第三格	dem Staat(e)	den Staaten
第四格	den Staat	die Staaten

註 Staat 國家。

混合變化に屬する名詞：

- 約五十個の男性名詞。  
(der Schmerz 苦痛、der Strahl 光線、der See 湖、  
der Zorn 怒)
- 約十個の中性名詞。  
(das Ohr 耳、das Hemd ワイシャツ、das Herz 心——但  
し Herz は單數第二格 Herzens、第三格 Herzen)

例解。

- der Schmerz der Ohren (Sg. das Ohr) [耳の苦痛]
- Der Sohn des Nachbars ist fleißig. [隣人の息子は勤勉である]
- Der Lehrer nennt die Namen (Sg. der Name oder Namen) der Insekten (Sg. das Insekt). [先生は昆虫の名

を擧げる]

D. 外來語名詞變化

外來語名詞の大部分は原則として獨逸固有の名詞と同一の方法によつて變化します。

1. 強變化に屬する外來語名詞：

der Titel 稱號、das Theater 劇場、das Möbel 家具、  
——第一式；  
der Palast 壯麗な建物、der Kanal 運河、das Telephon 電話——第二式；  
das Hospital 病院、das Regiment 聯隊——第三式。

2. 弱變化に屬する外來語名詞：

der Student 學生、der Patient 患者、die Medizin 醫學、  
die Universität 大學、die Bibliothek 圖書館、  
die Kolonie 殖民地、die Photographie 寫眞。——外來語名詞の大半は弱變化に屬します。

3. 混合變化に屬する外來語名詞：

der Professor 大學教授、der Doktor ドクトル、  
der Konsul 領事。

外來語名詞の特殊變化

1) ラテン、ギリシヤより轉來せる中性名詞。

a) um, ium に終る語は單數二格に s, 複數は全部 um を變じて en とします。

(das Museum 博物館——單數二格 Museums, 複數 Museen; das Studium 研究、Gymnasium ギムナジューム)

b) al, il, ip に終る語は單數二格に s, 複數は全部 ien をとります。

(das Kapital 資本——單數二格 Kapitals. 複數 Kapitalien;  
das Fossil 化石, das Prinzip 主義)

## 2) 英佛より轉來せる近世語.

單數は二格のみに s. 複數は凡ての格を通じて s を附します。

(der Film, der Klub, der Ski, der Sport; die City, die Villa; das Hotel, das Auto)

## E. 固有名詞變化

### A. 單獨に用ふる場合:

固有名詞は何等の附加語もなく、單獨に用ひる場合は原則として二格に s の語尾を附する丈であります。

例.

人 名		地 名	
男名	女名	國名	都市名
Karl	Verta……N……	Japan	Berlin
Karls	Vertas …G……	Japans	Berlins
Karl	Verta……D……	Japan	Berlin
Karl	Verta……A……	Japan	Berlin

- 註 1. 但し發音上 s, sch, tz, ß, x, z に終る男名には ens 又は ' (Apostroph) を附します。  
Hans——二格 Hansens (Hans')
2. e に終る女名には ns をとります。  
Marie——二格 Mariens
3. s, sch, tz, ß, x, z に終る地名の二格には語尾變化をなさ

ずして前置詞 von を用ひます。

die Vorstadt von Paris (巴里の郊外)

die Bewohner von Mainz (マインツ市の住民)

4. 一人が有する數個の名前を列ねるときは最後のもののみ變化します。

Johann Gottlich Fichte

(二格) Johann Gottlich Fichtes

### B. 單獨に用ひざる場合:

1. 冠詞を附したる人名、地名は冠詞のみ變化します。  
die Taten **des** großen Kahl (カール大帝の偉業)  
die Hauptstraße **des** modernen Tokio (近代化された東京の大通り)
2. 人名の前に普通名詞(主として階級、地位を表す稱號)のみ來る場合は人名を變化し、普通名詞が更にその前に冠詞を伴ふ場合は冠詞と普通名詞とを同時に變化させ、人名は語尾變化をなしません。

Fürst Bismarks Briefe (ビスマルク公の手紙)

Doktor Luthers Werke (ドクトル、ルーテルの著作)

der Tod **des** Kaisers Wilhelm (ウイリアム皇帝の崩御)

das Haus **des** Doktors Schmidt (ドクトル、シュミツトの家)

- 註 但し Herr (mr, gentleman) は冠詞の有無に拘らず語尾變化が行はれます。

Herrn Schneiders Wohnung = die Wohnung des Herrn Schneider (シュナイダー氏の住宅)

## 第 四 講

## 名詞の例題

1. Der Jäger kommt aus dem Walde (der Wald).
2. In dem Garten erblicken wir zwei Bäume (der Baum).
3. Die Häuser (das Haus) sind klein, aber schön.
4. Auf dem Teiche (der Teich) schwimmen die Enten (die Ente).
5. Die Tür des Zauns (der Zaun) ist offen.
6. Die Puppe liegt auf dem Fußboden (der Fußboden).
7. Die Strümpfe (der Strumpf) des Mädchens (das Mädchen) sind schwarz.
8. Zwei Menschen (der Mensch) sind in der Küche (die Küche).
9. Die Kutscher hat in der Hand (die Hand) die Peitsche (die Peitsche).
10. Der Hahn läuft zu dem Wasser (das Wasser).
11. Der Bauer arbeitet mit dem Pferde (das Pferd).
12. Die Uhr der Kirche (die Kirche) ist groß.
13. Die Ruine steht auf dem Berge (der Berg).
14. Der Monarch schreibt dem Präsidenten (der Präsident).
15. Er besitzt die Werke Goethes (oder Goethes Werke).

註 此の例題に於いて名詞以外の品詞に就いて不可解な點あればそれぞれの項を参照してもよろしいが、こゝでは特に名詞の變化に注意す

ることを忘れてはなりません。併し乍ら他の品詞の意義、用法等を少しも知らずして只名詞のみを覚えることは語學修得上不得策であるのみならず、興味も亦少い故、本書に於ては例題の解説には英譯を附することにしました。英語と對照することによつて、文章及び品詞の意義が一層明確に理解されることと思ひます。

## 解答

1. The hunter comes out of the wood.
2. We see two trees in the garden.
3. The houses sre small, but beautiful.
4. The ducks swim in the pond.
5. The gate of the hedge is open.
6. The doll lies on the floor.
7. The stockings of the maid are black.
8. Two men are in the kitchen.
9. The coachman has the whip in his hand.
10. The cock runs towards the water.
11. The farmer works together with the horse.
12. The clock of the church is large.
13. The ruins stand on the mountain.
14. The monarch writes to the President.
15. He has Goethe's works (the works of Goethe).

## 名詞の性 (das Geschlecht der Hauptwörter)

獨逸語の名詞は盡く男性、女性、中性の中、何れかの性を持つてゐます。併しその起原に就いては全然不明であります。名詞の性の見分け方は獨逸に多年居つた者には大體感で解りますが、性を決定する法則も全然無い譯ではありませんから、先づある丈の規則を記憶するのが一番有效であらうと思ひます。

名詞の性は之を名詞の表す「意味」と「形態」との両側面より分けて考察することが出来ます。

### A. 意味より見たる名詞の性

生物は原則として自然性によります。

男 性	女 性
der Mann (男)	die Frau (女)
der Bruder (兄弟)	die Schwester (姉妹)
der Ochs (牡牛)	die Kuh (牝牛)
der Hahn (雄鶏)	die Henne (雌鶏)

#### 中性名詞：

1. 人類動物の幼児。  
(das Kind 子供, das Kalb 犢, das Lamm 仔羊)
2. 種屬を示す總稱名の大部分。  
(das Tier 動物, das Hahn 鶏, das pferd 馬——牡馬, der Hengst, 牝馬 die Stute)
3. 國、町村、州、島等の名。  
(Deutschland 獨逸國, Berlin 伯林, Brandenburg プランデンプルク州, Helgoland ヘルゴラント島——但し Schweiz 瑞西, Türkei 土耳其は女性)
4. 物質名詞特に金屬の名。  
(das Wasser 水, das Fleisch 肉; das Gold 金, das Eisen 鐵, das Silber 銀, das Kupfer 銅)
5. 集合名詞の大半。  
(das Volk 國民, das Heer 軍隊, das Gebirge 山脈)
6. 名詞以外の品詞が名詞化したる語。

(das Essen 食事、動詞 essen より、das Gut 善行、形容詞 gut より、das A. B. C. イロハ)

#### 男性名詞：

1. 方位、月、週、四季、風の名。  
(der Osten 東, der Westen 西, der Januar 一月, der August 八月, der Sonntag 日曜日, der Freitag 金曜日, der Sommer 夏, der Winter 冬, der Nord 北風, der Süd 南風)
2. 巨大な動物又は猛禽獸の大部分。  
(der Elefant 象, der Wal 鯨, der Löwe 獅子, der Tiger 虎, der Adler 鷲)
3. 急激な運動又は音響は主として男性。  
(der Sprung 跳躍, der Lauf 疾走, der Fall 墜落, der Knall 爆發, der Donner 雷鳴)
4. 力強き感情又は衝動は主として男性。  
(der Mut 勇氣, der Zorn 怒, der Haß 憎惡, der Fleiß 勤勉, der Hunger 空腹)
5. 石の名。  
(der Stein 石, der Kiesel 礫, der Rubin ルビー)

#### 女性名詞：

河川の名の大部分。  
(die Donau ドナウ河, die Weser ヴェーザー河, die Elbe エルベ河——但し der Rhein ライン河, der Main マイン河等は男性であります。外國の河川も亦多くは男性となつてゐます。 der Nil ナイル河, der Mississippi ミシシッピ河)



## B. 形態より見たる名詞の性

## 男性名詞:

1. m, ich, ling; ent, ismus, ist, us に終る語——後者の五個は外來語接尾語。  
(der Helm 兜, der Fittlich 翼, der Jungling 若者, der Adressant 發信人, der Assistent 助手, der Egoismus 利己主義, der Artist 藝術家, der Typus 様式)
2. el, er, en に終る語の大部分。  
(der Himmel 空, der Dichter 詩人, der Garten 庭)
3. 動詞の語幹より作られた名詞の大半。  
(der Fall 墜落 fallen より, der Gang 歩行, gehen より)
4. ee で終る語の大部分。  
(der Tee 茶, der Kaffee コーヒ, der Schnee 雪)

## 女性名詞:

1. in, ei, heit, keit, schaft (英語の ship), ung; ie, ion, ik, tät (英語の ty) に終る語——後者の四個は外來語接尾語。  
(Kundin 婦人の客, Partei 黨派, Freiheit 自由, Fähigkeit 才能, Freundschaft 友情, Kleidung 衣服, Anarchie 無政府, Operation 手術, Kritik 批評, Universität 大學)
2. e, at, ut に終る語の大部分。  
(die Treue 忠實, die Heimat 故郷, die Armut 貧困)

## 中性名詞:

1. chen, lein; ell, ett, ium, ment, um に終るもの全部——後者の五個は外來語接尾語。  
(das Häuschen 小さい家, das Fräulein 令嬢, das

Modell モデル, das Kabinett 内閣, das Radium ラジウム, das Element 要素, das Feminium 女性)

2. sel, sal, tum, nis に終るもの大部分。  
(das Rätsel 謎, das Drangsal 窮迫, das Reichtum 富, das Gedächtnis 記憶)

此等の規則をこゝに一つ一つ記憶することは到底不可能なことでありますが、獨逸語に習熟すれば自然に使用出来るようになります。

## 第 五 講

## IV 代名詞 (Pronomen 又は Fürwort)

## 代名詞の種類

## A. 人稱代名詞 (Personalpronomen)

ich (I), du, Sie (you), er (he), sie (she), es (it);  
wir (we), ihr, Sie (you), sie (they)  
——再歸代名詞 (Reflexivpronomen) mich (myself),  
sich (himself, herself, themselves) 等。

## B. 物主代名詞 (Possessivpronomen)

mein (my), dein, Ihr (your), sein (his), ihr (her),  
sein (its); unser (our), euer, Ihr (your), ihr (their);  
meiner, der meine, der meinige (何れも mine) 等。

## C. 指示代名詞 (Demonstrativpronomen)

der (that, the one), dieser (this), jener (that), solcher  
(such), derjenige (the man……who), derselbe (the

same) 等。

**D. 疑問代名詞 (Interrogativpronomen)**

wer (who), was (what), welcher (which) 等。

**E. 関係代名詞 (Relativpronomen)**

der, welcher (何れも who), wer (who), was (what).

**F. 不定代名詞 (Indefinitpronomen)**

man (people, they), jemand (somebody), niemand (nobody), jedermann (everybody), etwas (something), nichts (nothing) 等。

**A. 人稱代名詞**

變 化 形 式  
單 數

	一 人 稱		二 人 稱	
N.	ich	(I.)	du	……(you) ……Sie
G.	meiner	(of me)	deiner	…(of you)…Ihrer
D.	mir	(to me)	dir	……(to you)…Ihnen
A.	mich	(me)	dich	…(you) ……Sie
三 人 稱				
	M.		F.	
N.	er	(he)	sie	(she)
G.	seiner	(of him)	ihrer	(of her)
D.	ihm	(to him)	ihr	(to her)
A.	ihn	(him)	sie	(her)
			es	(it)

複 數

	一 人 稱		二 人 稱	
N.	wir	(we)	ihr	……(you) ……Sie

G.	unser	(of us)	euer	……(of you)…Ihnen
D.	uns	(to us)	euch	…(to you)…Ihnen
A.	uns	(us)	euch	…(you) …… Sie
三 人 稱				
	M.		F.	
N.		sie		(they)
G.		ihrer		(of them)
D.		ihnen		(to them)
A.		sie		(them)

註 1. 此表中特に注意を要するものは sie 及び Sie の變化であります。之を抽出して明確に變化形式を知っておかねばなりません。

單 數	複 數
Sie (you)	Sie (you)
sie (she)	sie (they)

2. du と Sie の用法:

du=親稱。— du は家族、親戚、朋友、動物、神、詩歌及び凡そ満十五歳以下の子供(即ち確信式を行はな子供)に對して用ひられ、特に親しみを帯びて呼び掛ける言葉である故、私は之を親稱と名付けることにしました。

Sie=一般稱呼。— Sie は普通の間柄又は未知の人に對して用ひられる故、私は之を一般稱呼と名付けてゐます。二人稱に代るに三人稱を用ひて敬意を表した過去的事實よりして、一般に語學者は之を敬稱と呼んでゐますが、この譯語を用ひては現代の獨逸では實用上支障を來す虞がありますから、成るべく避けられる方がよいと思ひます。例へば喧嘩の場合でも du より Sie を多く用ひる事實に徴しても一般稱呼と呼ぶ方が穩當ではなからうかと思ひます。

再歸代名詞

補足語即ち目的格としての三格、四格の代名詞が主語と同一人を表はすとき、この代名詞を再歸代名詞と云ひます。英語の myself, himself, themselves 等に該當します。

再歸代名詞は一人稱及び二人稱にては二格、三格、四格を轉用します。併し此際主として用ひらるるものは四格であります。三人稱にては二格のみ人稱代名詞の二格を轉用しますが、三格と四格とに於ては性と數の如何に拘らず常に sich を用ふることになつてます。

再歸代名詞は再歸動詞の補足語でありますから、後に再歸動詞の項に於ても説明することにします。

例.

	四 格	三 格	二 格
一人稱	{ ich freue <b>mich</b> , wir freuen <b>uns</b> ,	getraue <b>mir</b> , getrauen <b>uns</b> ,	spotte <b>meiner</b> spotten <b>unser</b>
二人稱	{ du freu(e)st <b>dich</b> , ihr freut <b>euch</b> ,	getrau(e)st <b>dir</b> , getraut <b>euch</b> ,	spottest <b>deiner</b> spottet <b>euer</b>
三人稱	{ er freut <b>sich</b> , sie freuen <b>sich</b> ,	getraut <b>sich</b> , getrauen <b>sich</b> ,	spottet <b>seiner</b> spotten <b>ihrer</b>

[二人稱の Sie にも sich を用ふ—

Sie freuen (getrauen) sich].

[sich freuen 喜ぶ] [sich getrauen 自信がある] [sich spotten 嘲る]

## B. 物主代名詞

物主代名詞は人稱代名詞第二格より生じた形で物の所有主を表します。

	單 數	複 數
一人稱	mein (my)	unser (our)
二人稱	dein, Ihr (your)	euer, Ihr (your)
三人稱	sein (his), ihr (her)	sein (its); ihr(their)

### 變 化 形 式

	單 數		複 數	
	M.	F.	N.	M.F.N.
N.	mein	meine	mein	meine
G.	meines	meiner	meines	meiner
D.	meinem	meiner	meinem	meinen
A.	meinen	meine	mein	meine

- 註 1. mein 以外の物主代名詞の變化は mein を取り去り、それぞれの物主代名詞を當嵌めればよろしい。
2. 物主代名詞の變化は不定冠詞と同一であります。物主代名詞の中にも mein, dein, sein は、それ等の頭文字 m, d, s を抜きとれば ein となる故、變化を記憶するには非常に便利であります。複數の變化は定冠詞の變化に準じます。それは不定冠詞に複數形が欠けてゐるからであります。
3. こゝに注意すべき點は Ihr と ihr との意味を明瞭にすることです。これも前に申上げた Sie と sie に對應して識別表を作ることが出来ます。

單 數	複 數
Ihr (your)	Ihr (your)
ihr (her)	ihr (their)

例解.

- mein Brüder (der Bruder) [私の兄弟達]
- Ihr (又は dein) Haus [君の家]

- seine Feder. [彼のペン]
- Er ist der Freund meines Vaters. [彼は私の父の友である]
- Ihr lebt von eurer Arbeit (die Arbeit). [君達は君達の労働によつて生活する]

### 物主代名詞の名詞的用法

物主代名詞が名詞に附加することなく、單獨に用ひて物の所屬を示すことがあります。之を名詞的又は獨立的用法と云ひます (英語の mine, yours 等に當る)。

### 物主代名詞の名詞的變化:

- 1) 物主代名詞のみを用ひて、冠詞をとらないときは定冠詞と同様の變化をなします。
- 2) 物主代名詞が定冠詞をとる時は名詞の弱變化と同一の語尾變化を行ひます。

この兩者とも意味に於て異なる所はありません。

	單	數
1 の場合		2 の場合
第一格 meiner	}	der meine (又は der meinige)
第二格 meines		des meinen ( " des meinigen)
第三格 meinem		dem meinen ( " dem meinigen)
第四格 meinen		den meinen ( " den meinigen)
	複	數
第一格 meine	}	die meinen (又は die meinigen)
第二格 meiner		der meinen ( " der meinigen)
第三格 meinen		den meinen ( " den meinigen)
第四格 meine		die meinen ( " die meinigen)

以上は男性の場合の一人稱を示した一例に過ぎませんが、女性一人稱は meine, die meine (die meinige) となり、又中性の場合

は meines, das meine (das meinige) となります。三人稱の男性の場合は seiner, der seine (der seinige) となり、何れの物主代名詞も皆この表を適用すればよい譯です。

### 例解.

- Sie haben Ihren Tisch;  
ich habe auch meinen, (den meinen, den meinigen).  
[貴方は貴方の机を持つてゐます。私も亦私の机を持つてゐます]
- Er leidet an seiner Krankheit;  
sein Bruder auch an seiner (der seiner, der seinigen).  
[彼は彼の病氣で苦しんでゐる。彼の兄弟も亦病氣で苦しんでゐる]

## 第 六 講

### C. 指示代名詞

指示代名詞には次の諸語があります。

	單	數	複	數
	男性	女性	中性	
1.	der	die	das (that, the one);	die (those)
2.	{ dieser	diese	dieses (this);	diese (those)
	{ jener	jene	jenes (that);	jene (those)
3.	solcher	solche	solches (such);	solche (such)
4.	derjenige	diejenige	dasjenige (the man…… who the woman…… who that …………… who)	diejenigen (those who)

5. { derselbe dieselbe dasselbe } (the same);  
 { der nämliche die nämliche das nämliche }  
 dieselben, die nämlichen (the same)

指示代名詞の用法: 指示代名詞には「これは」「それは」の如く單獨に用ひらるる場合、即ち名詞的用法と「この人」「あの本」の如く名詞に附加して用ひらるる場合、即ち附加語的用法との二種があります。

#### 指示代名詞の變化

##### 1. der, die, das ; die

- a. 附加語的用法の場合:  
定冠詞と同一變化。
- b. 名詞的用法の場合:  
定冠詞の變化に従ふが、單數二格と複數二格、三格に於ては特殊の變化を行ひます。

	S-g.			Pl.
	M.	F.	N.	
G.	dessen	deren	dessen	deren, derer
D.				denen

#### 例解.

- Die Meinung der Frau ist mir gleichgültig. [あの女の考は私にはどうでもよい。——この場合 der は定冠詞と區別せんが爲、幾何か強調して發音します]
- Die (oder Das) sind die Töchter meiner Tante. [その人達は私の伯母の娘です]
- Das will ich denen sagen. [私はそれをあの人達に話ませう]

#### ◎ 複數二格 derer と denen の區別——

次に關係代名詞あるときは derer :

- Gedenke derer, welche in Not sind. [困窮にある人の身を思へ]
- 次に關係代名詞なきときは deren :  
Sie bedarf deren nicht. [彼女にはそんな人達は (又はそんな物は) 用事がない]。

##### 2. dieser, diese, dieses ; diese

##### jener, jene, jenes ; jene

この兩者は名詞的用法、附加語用法の何れを問はず定冠詞と同一の語尾變化を行ひます。

#### 變 化 形 式

	Sg.			Pl.
	M.	F.	N.	M.F.N.
N.	dieser (jener)	diese (jene)	dieses (jenes)	diese (jene)
G.	dieses (jenes)	dieser (jener)	dieses (jenes)	dieser (jener)
D.	diesem (jenem)	dieser (jener)	diesem (jenem)	diesen (jenen)
A.	diesen (jenen)	diese (jene)	dieses (jenes)	diese (jene)

#### 例解.

- Dieses Buch ist besser als jenes Buch. [この本はあの本よりよい]
  - Jener Mann ist der Onkel dieser Knaben. [あの人はこの男の子等の伯父である]
- ◎ Dies ist die Wahrheit. [これは眞實だ。——中性第一格]

及び第四格の dieses が名詞的用法に従ふ時は常に dies なる特別の形を用ひます]

- Dieser Knabe ist fleißig, jener ist faul. [此の男の子は勤勉であるが、あの子供は懶け者である]

### 3. solcher, solche, solches ; solche

a. 附加語的用法に二種あります。

1. 單獨にて名詞に附する場合：

solcher Mann (こんな男)、solche Frau (こんな女) 此の場合定冠詞と同一の語尾變化をなします。  
—N. solcher G. solches D. solchem A. solchen 等。

2. 不定冠詞を更にその前に附する場合：

ein solcher Mann, eine solche Frau.

此の場合の變化は形容詞の項に於いて述べる混合變化に當ります。即ち solch を形容詞的指示代名詞と看做せばよい譯です。

	Sg.		
	M.	F.	N.
N.	ein solcher	eine solche	ein solches
G.	eines solchen	einer solchen	eines solchen
D.	einem solchen	einer solchen	einem solchen
A.	einen solchen	eine solche	ein solches

註. 複数は只 solch に定冠詞の語尾を附する丈です。

b. 名詞的用法に於ては「斯様なもの」といふ意味で使用されてゐます。

solch einer, solch eine, solch eines [こんなもの

—この場合 solch は決して變化しません]

例解.

- Solchen Wert hat dieses Haus nicht.  
[そんな價值をこの家は持つてゐない]
- Solchem Kinde will ich nichts geben.  
[こんな子供には僕は何もやりたくない]
- Die Wirkung eines solchen Gift ist schrecklich.  
[斯様な毒の作用といふものは恐ろしいものだ]

### 4.5.

**derjenige, diejenige, dasjenige ; diejenigen  
derselbe, dieselbe, dasselbe ; dieselben  
der nämliche, die nämliche, das nämliche ; die nämlichen**

此等の指示代名詞は何れも名詞的にも亦附加語的にも用ふることが出来ます。

變化は三者とも後に述べる形容詞の弱變化(定冠詞+形容詞+名詞)に従ひますが、語の構成を見ればその理由が明瞭となります。即ち此等の語には何れも定冠詞が附加されてゐますから、之を分離して後の語を形容詞的に變化することになります。但し der nämliche 丈は最初より分離して書かれてゐます。

變 化 形 式

	Sg.			Pl.
	M.	F.	N.	M.F.N.
N.	derjenige	diejenige	dasjenige	diejenigen
G.	desjenigen	derjenigen	desjenigen	derjenigen
D.	demjenigen	derjenigen	demjenigen	denjenigen
A.	denjenigen	diejenige	dasjenige	diejenigen

註 derselbe, der nämliche も之に相等しき變化形式をとります。

例解.

1. derjenige.

名詞的用法の場合:

- Derjenige, welcher reich ist, ist nicht immer glücklich.  
[富める者常に必しも幸福ならず]
- Diejenigen, welche nicht hören können, sind taub.  
[聞くことの出来ない人人は聾である]

附加語的用法の場合:

- Der Lehrer lobt diejenigen Schüler, welche gut lernen.  
[先生はよく勉強する生徒を褒める]
- Derjenige Herr, den ich gestern sah, ist sein Onkel.  
[私が昨日見たあの方は彼の伯父だ]

2. derselbe, der nämliche.

名詞的用法の場合:

- Der Zustand des Kranken ist noch derselbe.  
[患者の状態は尚依然として變らない]
- Ganz das nämliche ist es. [それは全く同一である]

附加語的用法の場合:

- Sie wohnten unter demselben Dache.  
[彼等は同じ屋根の下に住んでゐる]
- Das ist der nämliche Mann, der mich gestern traf.  
[私に昨日會つたのはこの人です]

## 第 七 講

### D. 疑問代名詞

疑問代名詞には次の四語があります。

1. wer (who)
2. was (what)
3. welcher, welche, welches; welche (which)
4. was für ein?, was für eine?, was für ein; was für?  
(what sort of)

1. 2. wer, was.

變 化 形 式

	(wer)	(was)
N.	wer (who)	was (what)
G.	wessen (whose)	wessen (of what)
D.	wem (to whom)	欠
A.	wen (whom)	was (what)

註 1. was の三格即ち英語の to what には wozu なる別箇の言葉を用ひます。

2. wer, was の二格は詩歌などにては wes の形をとつてゐます。

3. wer は人を尋ね、was は物を問ふ場合に用ひます。

例解.

- Wer ist da? [そこにゐるのは誰か]
- Wessen Hut ist das? [それは誰の帽子か]
- Wem geben Sie diesen Ring? [君は誰にこの指輪をあげるのか]

- Von wem reden Sie? [君は誰のことを話してゐるのか]
- Wen hat er gefragt? [彼は誰に尋ねたか— fragen は四格の語を従属語としてとります]
- Was liegt dort? [そこに何かがあるか]
- Wessen bedarf es noch? [未だ何を(誰を)必要とするか— bedürfen は二格の語を従属語として持ちます]
- ◎ was が三格四格に於て前置詞を必要とする場合には、副詞 wo とその前置詞とを結合せる疑問副詞を用ひます。前置詞が母音を以て始るときは wor と書きます。  
—woran (whereon), wofür (for what), wodurch (by what), womit (with what), wovon (of what), wozu (why)。
- Womit hören Sie? [君は何を以て聞くか]
- Worauf sitzt er? [彼は何の上に坐つてゐるか]

## 3. welcher.

welcher の語尾變化は定冠詞と同一であります。

welcher Knabe, welche Blume, welches Kind  
(どの男の子) (どの花) (どの子供)

## 例解

- Welcher Stock gehört Ihnen? [どのステツキが君のか]
- Welche Vögel singen im Käfig? [どの鳥が籠の中で鳴いてゐるか]
- Welchem Kinde geben Sie das? [どの子供に君は之をやるのか]
- Welches ist Ihr Buch? [どれが君の本か]
- Welches der beiden Bücher ist besser? [この二冊の本の中どちらがよいか]

## 4. Was für ein.

不定冠詞の變化に従つて ein 丈を變化します。複數形では只 was für となつて ein が省かれ、二格の形を缺いてゐます。

## 例解.

- Was für ein Buch ist das? [これはどんな本ですか]
- Was für einer Gattung gehört dieses Tier? [この動物はどんな種屬に屬してゐますか]
- Was für Leute sind das? [それはどんな人々ですか]

## E. 關係代名詞

1. { der (who), die (who), das (which, that); die  
welcher (#), welche (#), welches (#); welche
2. wer (those who)
3. was (what which)

## 1. der, welcher.

der, die, das の變化形式

	Sg.			Pl.
	M.	F.	N.	M.F.N.
N.	der	die	das	(who, which, that) die
G.	<b>dessen</b>	<b>deren</b>	<b>dessen</b>	(whose, of which) <b>deren</b>
D.	dem	der	dem	(to whom, to which) <b>denen</b>
A.	den	die	das	(whom, which, that) die

welcher, welche, welches の變化形式

	Sg.			Pl.
	M.	F.	N.	M.F.N.
N.	welcher	welche	welches	welche
G.	<b>dessen</b>	<b>deren</b>	<b>dessen</b>	<b>deren</b>



D.	welchem	welcher	welchem	welchen
A.	welchen	welche	welches	welche

- 註 1. der の變化は指示代名詞の名詞的用法の變化と同じであります。只複數二格に derer の形が欠けてゐます。
2. welcher は疑問代名詞の變化と多少異り、二格は關係代名詞の der と同一の變化をなします。
3. der と welcher の用法：  
der は會話に於て用ひ、welcher は主として文章に於て用ひらるると覚えておけばよいでせう。用法上の細則は實用上全くその必要を認めません。

## 例解.

- Der Student, welcher (der) bei mir wohnt, ist fleißig. [私の所に住んでゐる學生は勤勉である]
- Die Mutter, deren Kind erkrankt ist, ist sehr unglücklich. [子供が病氣にかかつてゐる母親は大變不幸である]
- Das Buch, welches (das) ich kaufte, ist interessant. [私が買った書物は面白い]
- Verbessere die Fehler, welche (die) in diesem Satze vorkommen. [此の文章の中にある誤を正せ]
- Er hatte eine Frau, deren er nicht würdig war. [彼は妻を持つてゐたが彼には勿體なかつた]

## 2.3. wer, was.

此の兩語の變化は疑問代名詞の場合と同様です。wer, was は關係代名詞 der, welcher 等が指示代名詞 derjenige と結合した場合と同じ意味を持つてゐます。

$$\text{wer} = \begin{cases} \text{derjenige, welcher (der)} \\ \text{diejenige, welche (die)} \end{cases}$$

$$\text{wessen} = \begin{cases} \text{desjenigen, welcher (der)} \\ \text{derjenigen, welche (die)} \end{cases}$$

$$\text{wem} = \begin{cases} \text{demjenigen, welcher (der)} \\ \text{derjenigen, welche (die)} \end{cases}$$

$$\text{wen} = \begin{cases} \text{denjenigen, welcher (der)} \\ \text{diejenigen, welche (die)} \end{cases}$$

$$\text{was} = \text{dasjenige, welches (das)}$$

$$\text{wessen} = \text{desjenigen, welches (das)}$$

(三格缺如)

$$\text{was} = \text{dasjenige, welches (das)}$$

註 wer は人を表し、was は物を示すことを再言しておきます。

## 例解.

- Wer zufrieden ist, (der) ist glücklich. [満足するものは幸福である。—— der は同格又は一格の場合省略しても差支へありません]
- Wen Sie loben, dem gebe ich den Preis. [君の褒める人に私はこの賞品を與へる]
- Was wahr ist, (das) muß wahr bleiben. [眞實なことはいつまでも眞實であらねばならぬ]
- Es reut mich das, was ich gemacht habe. [私が爲したことを後悔する]
- Was が三格及び四格の前置詞と共に用ひらるる場合、wo とその前置詞とを結合した疑問副詞を用ひることが多い。
- Alles, worüber ich heut reden, ist ihm unbekannt. [私が今喋ることは凡て彼の知つてゐないことである]
- Das Zimmer, worin ich schlafe, ist sehr warm.

〔私の寝る室は大變暖い〕

## 第 八 講

### F. 不定代名詞

不定代名詞には意味上、(不定數詞的) 名詞的のものと (不定數詞的) 形容詞的のものとがあります。

#### I. 名詞的不定代名詞:

1. man (one, they; people)

2. { jemand (somebody)  
niemand (nobody)  
jedermann (everybody)

3. { etwas (something)  
nichts (nothing)  
welches (some)

4. { einer (one, some one)  
der eine...der andere (the one...the other)

#### 1. man

##### 變 化 形 式

N.	man
G.	eines
D.	einem
A.	einen

#### 例解.

- Man muß fleißig arbeiten. [人は精出して働かねばならぬ]

- Man muß zufrieden sein, wenn einem Gesundheit gegeben ist. [健康を與へられた人は満足せねばならない]

#### 2. Jemand, niemand, jedermann.

##### 變 化 形 式

N.	jemand	niemand	jedermann
G.	jemand's	niemand's	jedermann's
D.	jemand(em)	niemand(em)	jedermann
A.	jemand(en)	niemand(en)	jedermann

- 註 1. この三種の言葉の變化形式は同一であります。
2. 三格及び四格の變化は實際に於て全然使用されない形ありますが、後に述べる動詞、形容詞、前置詞の格支配即ち何格をその前後に従へるかを、明にせんが爲用ひられる形でありまして、文法上重要な變化を示すものであります。字書に於ては二格は *js.*、三格は *jm.*、四格は *jn.* と略して示されてあります。

#### 例解.

- Jemand klopft. [誰かが戸を敲いてゐる]
- Ich kenne niemand. [私は誰をも知らない]
- Das ist jedermann's Freude. [それは皆んなの喜びである]
- Mein Nachbar leiht niemand Geld. [私の隣人は誰にも金を貸さない]
- Ich bin jemand getroffen. [私は誰かに出會つた]

#### 3. etwas, nichts, welches.

此の中變化するのは welches 丈であります。

#### 例解.

- Haben Sie mir etwas zu sagen? [あなたは何か私に云]

ふことがありますか]

- Es gibt nichts Neues. [何も變つたことがない]
- Haben Sie Geld? Ja, brauchen Sie welches?  
[金を持つてゐるかね、うん持つてはゐるが少し入用なことでもあるのか]

4. einer, der eine……der andere.

例解.

- Im Verkehr stand ich nur mit einem von ihnen.  
[私は彼等の中只一人とのみ交際してゐた]
- Der eine sagt dies, der andere jenes.  
[一人はこう云ひ、他の人はあゝ云つてゐる]

註 der eine…der andere は形容詞の弱變化に従ひます。

## II. 形容詞的不定代名詞:

之に屬する主なるものは次のような語であります。

- |    |   |         |                   |
|----|---|---------|-------------------|
| 1. | { | jeder   | (each, every one) |
|    |   | mancher | (many a man)      |
|    |   | keiner  | (none, no one)    |
| 2. | { | viel    | (many, much)      |
|    |   | wenig   | (few, little)     |
|    |   | alles   | (all, everything) |

註 (1) は定冠詞の如く變化し、(2) は往々變化せずして用ひられます。

- Ich habe jedem ein Buch geschenkt.  
[私は皆に本を一冊贈つた]
- Ich habe Ihnen so manches zu sagen.  
[私は貴方にそんなに色々なことを話さねばならない]
- Keiner kann ewig auf der Erde leben.  
[何人も此の世に永遠に生存することは出来ない]

- Lies nicht vieles, sondern viel.  
[多讀するより精讀せよ]
- Mit vielem hält man haus, mit wenigem kommt man aus. [家計は物の多少を問はず立つて行けるものだ]
- Es hat alles keinen Wert. [それは皆何等の價値もない]

## 代名詞の例題

1. Wo sind Ihre Söhne?
2. Sie sind in der Kirche.
3. Er kann das ohne mich tun.
4. Ich werde Sie und Ihren Bruder belohnen.
5. Das ist meine Pflicht, deinem Vater das zu sagen.
6. Sie leiht mir ihr Tintenfaß, ihre Feder und ihre Schere.
7. Heinrich hat meine verloren, aber er wird Ihnen seine leihen.
8. Der Wagen des Onkels ist bequemer als unserer.
9. Welche ziehen Sie vor diese oder jene?
10. Geben Sie mir von jener Tinte, diese hier ist schlecht.
11. Er hat all sein Geld und das seiner Frau verloren.
12. Was ist Ihnen begegnet?
13. Von welchem Manne sprechen Sie?
14. Wer von euch hat das getan?
15. Ich gebe es demjenigen, welchen ich am meisten liebe.
16. Wer gütig und höflich ist, wird viele Freunde haben.
17. Ich werde ihm alles geben, was er nötig ist.
18. Jedermann hat seine Fehler.

19. Ich werde Ihr Geheimnis niemand sagen.  
20. Jedes Land hat seine besonderen Gebräuche.

## 解答

1. Where are your sons?
2. They're at church.
3. He can do that without me.
4. I shall reward you and your brother.
5. It's my duty to show that to your father.
6. She lends me her inkstand, her pen, and her scissors.
7. Henry has lost mine, but he'll lend you his.
8. My uncle's carriage is more convenient than yours.
9. Which do you prefer these or those?
10. Give me some of that ink, this is bad.
11. He has lost all his money and that of his wife as well.
12. What has happened to you?
13. What man are you speaking of?
14. Which of you did this?
15. I give it to the man whom I love most.
16. He who is kind and polite will have many friends.
17. I'll give him everything he needs.
18. Everybody has his faults.
19. I shan't tell your secret to anybody.
20. Each country has its peculiar customs.

## 第 九 講

## V. 形容詞 (Adjektiv 又は Eigenschaftswort)

## 形容詞の用法

## 1. 形容詞の客語的用法

「この山は美しい」「この本は面白い」等に於ける「美しい」「面白い」なる形容詞は名詞より獨立して用ひられてゐます故、之を形容詞の客語的用法と云ひます。

## 2. 形容詞の附加語的用法

「美しい山」「面白い本」に於けるが如く、形容詞が名詞の前に附加して用ひらるる時、之を形容詞の附加語的用法と云ひます。

## 形容詞の變化

形容詞の變化は形容詞の附加語的用法の場合にのみ行はれます。之を次の如く三種に分ちます。

## 1. 強變化 (starke Deklination)

形容詞+名詞。

## 2. 弱變化 (schwache Deklination)

定冠詞  
定冠詞的語尾變化規定詞 } +形容詞+名詞。

## 3. 混合變化 (gemischte Deklination)

不定冠詞  
不定冠詞的語尾變化規定詞 } +形容詞+名詞。

註、規定詞とはその次に來る品詞の意味を限定する言葉であります。例

へば指示代名詞や物主代名詞の如きものです。

定冠詞的語尾變化規定詞とは、その名の示す如く規定詞の語尾が定冠詞と同様の變化をなすものを云ひ、不定冠詞的語尾變化規定詞も亦同じく不定冠詞の語尾變化に従ふ規定詞を意味します。

## 1. 強變化

## 變化形式

	Sg.			Pl.
	M.	F.	N.	M.F.N.
N.	—er	—e	—es	e
G.	—en	—er	—en	er
D.	—em	—er	—em	en
A.	—en	—e	—es	e

註 單數の男性及び中性の二格の語尾に es といふ形がありましたが、現代の獨逸語では全く使用されなくなりました。只古い過去の遺物として若干の語に此の形が残つてゐますが、この場合でも en を用ひて差支へありません——gutes (guten) Muts (上氣嫌で) reines (reinen) Herzens (清い心で) 等。この區別に就いて色々註譯を施した文法書を見受けますが、それは全然徒勞な規則だと思ひます。變化形式は二格以外は定冠詞と同一であります。

例.

	單		中 性
	男 性	女 性	
一格	guter Wein (Knabe)	gute Frau	gutes Kind
二格	guten Weines (Knaben)	guter Frau	guten Kindes
三格	gutem Weine (Knaben)	guter Frau	gutem Kinde
四格	guten Wein (Knaben)	gute Frau	gntes Kind
	複 數		
一格	gute Weine (Knaben)	Frauen,	Kinder

二格 guter Weine (Knaben) Frauen, Kinder  
 三格 guten Weinen, (Knaben) Frauen, Kindern  
 四格 gute Weine, (Knaben) Frauen, Kinder  
 註、 gut 良い、Wein 葡萄酒、Knabe 男兒、Frau 女、Kind 子供。

例解.

- Die Elbe ist als schiffbarer (adj. schiffbar) Fluß von großer (adj. groß) Wichtigkeit. [エルベ河は航行用河川として重要である]
- Die Eltern guter, (adj. gut) fleißiger (adj. fleißig) Kindes sind innerlich immer zufrieden. [善良にして勤勉な子供を有つ兩親は内心いつも不足を感じない]
- ◎ 語尾變化をなさない數詞 (基数) 及び一切の不定數詞的形容詞——einige (some, a few), mehrere, viele, manche (何れも many) wenige (only, a few) 等——の後:
  - zehn starke Männer [十人の力強い人]
  - viele (wenige) treue Freunde [多くの (少い) 忠實な友達]
- ◎ 呼懸の名詞に附加するとき:
  - Liebes Kind, wo bist du gewesen? [お前さん、何處へ行つてゐたの]

## 2. 弱變化

## 變化形式

	Sg.			Pl.
	M.	F.	N.	M.F.N.
N.	der — e	die — e	das — e	die — en
G.	des — en	der — en	des — en	der — en

D.	dem—en	der—en	dem—en	den—en
A.	den—en	die—e	das—e	die—en

註 名詞の弱變化に似てゐる點に注意を要します。

例.

	單	數	
	男 性	女 性	中 性
一格	der schöne Hund	die schöne Blume	das schöne Haus
二格	des schön <b>en</b> Hundes	der schön <b>en</b> Blume	des schön <b>en</b> Hauses
三格	dem schön <b>en</b> Hunde	der schön <b>en</b> Blume	dem schön <b>en</b> Hause
四格	den schön <b>en</b> Hund	die schöne Blume	das schöne Haus
	複	數	
一格	die schön <b>en</b> Hunde	(Blumen, Häuser)	
二格	der schön <b>en</b> Hunde	(Blumen, Häuser)	
三格	den schön <b>en</b> Hunden	(Blumen, Häusern)	
四格	die schön <b>en</b> Hunde	(Blumen, Häuser)	

註、schön 美しい、Hund 犬、Blume 花、Haus 家。

例解.

1) 定冠詞+形容詞+名詞の場合:

- Der alter (adj. alt) Turm steht noch neben den weitläufigen (adj. weitläufig) Ruinen der mächtigen (adj. mächtig) Kaiserburg. [古塔は今だにあの雄大な帝城の廣い廢墟の傍に立つてゐる]
- Die starken (adj. stark) Völker der Erde sind im(=in

dem) kalten (adj. kalt) Norden. [世界の強い國民は寒い北部に住んでゐる]

2) 規定詞+形容詞+名詞の場合:

— 一定冠詞と同一語尾變化をとる規定詞には dieser, jener, solcher, welcher, jeder, aller, mancher 等があります—

- dieser (jener) alte Mann [この(あの)老人]
- mancher gute Knabe [幾人かのよい男の子]
- Von welchem berühmten(adj. berühmt) Manne sprechen Sie? [君はどの有名な人に就いて話してゐるのか]

3. 混合變化

變 化 形 式

	Sg.			Pl.	
	M.	F.	N.	M.F.N.	
N.	ein —er	eine —e	ein —es	a)—e	b)—en
G.	eines —en	einer—en	eines —en	—er	—en
D.	einem—en	einer—en	einem—en	—en	—en
A.	einen —en	eine —e	ein —es	—e	—en

註、複數では、單數に於て不定冠詞をもつ場合に a 式となり、物主代名詞をもつときは b 式となります。

例.

	單	數
	男 性	女 性
一格	ein (mein) guter Sohn	eine gute Tochter
二格	eines (meines) guten Sohnes	einer guten Tochter
三格	einem (meinem) guten Sohne	einer guten Tochter
四格	einen (meinen) guten Sohn	eine gute Tochter

## 中性

- 一格 ein gutes Kind  
 二格 eines guten Kindes  
 三格 einem guten Kinde  
 四格 ein gutes Kind

## 複 數

## (a)

- 一格 gute Söhne (Töchter, Kinder)  
 二格 guter Söhne (Töchter, Kinder)  
 三格 guten Söhnen (Töchtern, Kindern)  
 四格 gute Söhne (Töchter, Kinder)

## (b)

- 一格 meine guten Söhne etc.  
 二格 meiner guten Söhne etc.  
 三格 meinen guten Söhnen etc.  
 四格 meine guten Söhne etc.

註、 Sohn 息子、 Tochter 娘、 Kind 子供。

## 例解.

- 不定冠詞+形容詞+名詞の場合：
  - Vor dem Bahnhof ist ein großer (adj. groß) Platz, auf dem ein lebhafter (adj. lebhaft) Verkehr herrscht. [停車場の前に交通の頻繁な大きい廣場がある]
  - Auf einem hohen Berge pflücke ich ein schönes Blümchen. [或る高い山の上に於て私は一片の美しい花を摘む]
- 規定詞+形容詞+名詞の場合：
 

——不定冠詞と同一語尾變化をなす規定詞は物主代名詞

と不定冠詞 kein 丈であります——

- mein (sein, Ihr) kleiner (adj. klein) Hund [私の(彼の、貴方の)小さい犬]
- unsere neuen (adj. neu) Häuser [私達の新しい家]
- Ich kaufe keine unreifen (adj. unreif) Früchte. [私は熟しない果物を決して買はない]

## ◎ 形容詞の變化に就いての注意

形容詞の變化は原則として「形容詞+名詞」の場合と「冠詞+形容詞+名詞」の場合との二種あるべき筈であります。所が不定冠詞の項に於て申上げた通り、不定冠詞には重大な缺陷があつて、第一格に於て男性及び中性の區別がつきません、それ故 (3) の場合には定冠詞の語尾を形容詞に附して、性、數、格を明示し、この缺陷を補ふ必要が生じてきたのであります。

一體名詞の變化をなすに當り、その名詞の前に冠詞來り、性數格が既に明瞭な場合、他の附加語は出來得る限り複雑な變化を避けてみる點に注意せねばなりません。

## 第十講

## 形容詞の名詞化

形容詞及び後に述べる動詞の分詞は名詞として用ひられるとき頭字は大書しますが、その語尾變化は形容詞として止ります。

## 單 數

- |                              |   |                          |
|------------------------------|---|--------------------------|
| 一格 Der Fremde (the stranger) | } | ein Fremder (a stranger) |
| 二格 des Fremden               |   | eines Fremden            |
| 三格 dem Fremden               |   | einem Fremden            |

四格 den Fremden	} einen Fremden
複                  數	
一格 die Fremden (the strangers)	} Fremde (strangers)
二格 der Fremden	
三格 den Fremden	
四格 die Fremden	

次のような語も皆此の變化に屬します。

der Reisende (the traveller), der Gelehrte (man of learning),  
der Bediente (the servant), der Deutsche (the german),  
der Gesandte (the ambassador), der Gefangene (the prison).

註、語尾變化をなさない形容詞の中性の語も亦同様に取扱はれます。  
das Schöne (beautiful), Gutes tun (to do good), das Neue,  
das Alte (that which is new, old)

### 形容詞の比較 (Komparation des Adjektives)

英語と同様に形容詞の比較は三級に分れます。

1. 原級 (positiv)
2. 比較級 (komparativ) = 形容詞 + er
3. 最上級 (superativ) = 形容詞 +  $\left\{ \begin{array}{l} (e) \text{ ste} \\ (e) \text{ sten} \end{array} \right.$

形容詞の比較變化には規則變化と不規則變化との二種があります。

#### I 規則變化

a. 變母音をとる場合:

形容詞	形容詞的副詞
原級 stark (strong)	stark
比較級 stärker	stärker

最上級 stärkste	} am stärksten der (die, das) stärkste
--------------	---

b. 變母音をとらざる場合:

原級 klar (clear)	klar
比較級 klarer	klarer
最上級 klarste	am klarsten der (die, das) klarste

例.

原級	比較級	最上級
reich (rich)	reicher	reichste (am reichsten)
schön (handsome)	schöner	schönste (am schönsten)
lang (long)	länger	längste (am längsten)
artig (nice)	artiger	artigste (am artigsten)
kalt (cold)	kälter	kälteste (am kältesten)
süß (sweet)	süßer	süßeste (am süßesten)

#### II 不規則變化

原級	比較級	最上級
groß (great)	größer	der größte (am größten)
hoch (high)	höher	der höchste (am höchsten)
nahe (near)	näher	der nächste (am nächsten)
gut (good)	besser	der beste (am besten)
viel (much)	mehr	der meisten (am meisten)

註 1. el, er, en に終る形容詞の比較級に於ては l の前の e は常に、  
r, n の前の e は時々脱落します。

例 edel (noble); edler; der edelste  
bitter (bitter); bitterer (od. bitttrer); der bitterste  
trocken (dry); trock(e)ner; der trockenste



2. s, ß, sch, z 又は d, t に終る一音綴の形容詞の最上級には *est* を用ひます(但し若干の例外があります)。

例 kurz (short); kürzer; der kürzeste  
stolz (proud); stolzer; der stolzeste  
kalt (cold); kälter; der kälteste

#### 例解:

- Meine Schwester ist älter als die deinige. [私の姉妹は君の姉妹より年をとつてゐる]
- Ich bin der jüngste Bruder. [僕は一番末の兄弟である]
- ◎ 形容詞の比較級、最上級が附加語として用ひる時は、原級の形容詞と同一の語尾變化をなします:
  - mein älterer Bruder [私の兄]
  - seine jüngste Schwester [彼の一番末の妹]
- ◎ 最上級が述語として用ひられる場合は、形容詞は一格の形をとつてその前に主語の性、數に一致せる定冠詞を附するか又は *am* を冠する三格の形をとります:
  - Karl ist der fleißigste (am fleißigsten). [カールは一番熱心である]
  - Dieses Buch ist das beste(am besten). [この本が一番よい]

#### 形容詞の格支配 (Rektion der Adjektive)

形容詞のみならず、動詞及び前置詞の項に「格支配」といふ言葉が出て來ます。形容詞の格支配とは或る形容詞の爲にその前又は後に來る品詞(主として名詞)が、從屬關係に於かれて、格を規定されることを意味します。英語にも事實上格支配は行はれてゐますが、獨逸語の如く格の形が明確でない爲、注意を惹き起さないまでであります。

形容詞には格を支配するものが澤山ありますが、此等は辭書に皆掲げられてありますから、一々その例を示す必要はなからうと思ひます。例へば辭書に *mit gen.* 或は *mit dat.* と形容詞に附記されてあるのは「二格を從ふ」又は「三格を從ふ」といふことを意味します。今その用法に就いて一例を擧げてみます。

#### 1. 第二格支配の形容詞:

Das Bote war **des** Weges **unkundig**. [使者は道を知らなかつた]

Er ist **des** Amtes **fähig**. [彼にはその職務は務まる]

#### 2. 第三格支配の形容詞:

Der Sohn ist **dem** Vater **ähnlich**. [息子は父に似てゐる]

Die Sache ist **mir** ganz **fremd**. [その事件は僕には全く分らぬ]

#### 3. 第四格支配の形容詞:

Der Sack ist **einen** Zentner **schwer**. [袋は百斤の重さがある]

Sie ist **einen** Monat **alt**. [彼女は生れて一ヶ月である]

#### 4. 前置詞を支配する形容詞: — 或る形容詞は一定の前置詞を從へます。これも矢張格支配に準すべきものであります。

Er ist arm **an** Gedanken. [彼の思想は貧弱だ]

Er ist stolz **auf** sein Vaterland. [彼は祖國に就いて鼻が高い]

#### 形容詞の例題

1. Ihr Großvater ist noch frisch und tätig.
2. Gewärmtes Wachs ist weich.

3. Das ist eine gefährliche Gewohnheit.
4. Man muß gute Miene zum bösen Spiel machen.
5. Ich habe großen Hunger.
6. Sie verirrt sich in einem dichten Walde.
7. Er ist hier seit einer halben Stunde.
8. Haben Sie ein gutes Mittagessen gehabt?
9. Er gibt seinem jüngeren Bruder ein schlechtes Beispiel.
10. Sie hat zwei hübsche Kinder.
11. Sein junger Bruder ist reich.
12. Er schämt sich seiner elenden Wohnung.
13. Wieviel verdanke ich meiner seligen Mutter.
14. Es ist keine warme Milch mehr da.
15. Die gegenwärtige Regierung genießt das Vertrauen des Volkes nicht.
16. Kennen Sie Mann mit roten Barte?
17. Meine Mutter liebt die neuen Moden nicht.
18. Dieses Buch ist klein, jenes ist kleiner, und dieses hier ist von allen das kleinste.
19. Niemand hat größere Verbrechen begangen als er.
20. Es war der glücklichste Tage meines Lebens.
21. Das schönste in diesem Stück ist der Monolog am Anfang des letzten Anzugs.
22. Der Furchtsame erschrickt vor der geringsten Gefahr.

## 解答

1. Your grandfather is still lively and active.
2. Wax is soft, when warmed.
3. That is a dangerous habit.

4. One must make the best of a bad job.
5. I am very hungry.
6. They lost their way in a very dense forest.
7. He has been here this half hour.
8. Have you had a good dinner?
9. He sets his younger brother a bad example.
10. She has two pretty children.
11. His younger brother is rich.
12. He's ashamed of his wretched dwelling.
13. How much I'm indebted to my late mother.
14. There's no more hot milk.
15. The present government doesn't enjoy the confidence of the people.
16. Do you know the man with the red beard?
17. My mother doesn't like the new fashions.
18. This book is small, that is smaller and this again is the smallest of all.
19. No one has committed greater crime than he.
20. It was the happiest day of my life.
21. The finest passage in this play is the soliloquy at the beginning of the last act.
22. The timid man is afraid of the least danger.

## 第十一講

## VI 數詞 (Numerale 又は Zahlwort)

數詞は次の二種に大別されます。

## A. 定數詞 (bestimmtes Zahlwort)

- I. 基数 (Kardinalzahl 又は Grundzahl)  
 II. 序数 (Ordinalzahl 又は Ordnungszahl)  
 III. 分数 (Partitiva); 反覆数 (Iterativa);  
 倍数 (Multiplikativa); 種数 (Spezialia)  
 分類数 (Distributiva)。

B. 不定数詞 (unbestimmtes Zahlwort)

A. **定数詞**

I. 基数

1 eins (ein)	18 achtzehn
2 zwei	19 neunzehn
3 drei	20 zwanzig
4 vier	21 einundzwanzig
5 fünf	22 zweiundzwanzig
6 sechs	23 dreiundzwanzig
7 sieben	27 siebenundzwanzig
8 acht	30 dreißig
9 neun	31 einunddreißig
10 zehn	35 fünfunddreißig
11 elf	40 vierzig
12 zwölf	50 fünfzig
13 dreizehn	60 sechzig
14 vierzehn	70 siebzig
15 fünfzehn	80 achtzig
16 sechzehn	90 neunzig
17 siebzehn	100 hundert
	101 hundertundeins.

110	hundertundzehn.
225	zweihundertfünfundzwanzig.
576	fünfhundertsechundsiebzig.
999	neunhundertneunundneunzig.
1000	tausend (eintausend)
1050	tausendundfünfzig.
2000	zweitausend.
3456	dreitausendvierhundertsechsfünfzig.
6011	sechstausendundelf.
10000	zehntausend.
87654	siebenundachtzigtausendsechshundertvierundfünfzig.
100000	hunderttausend.
468357	vierhundertachtundsechzigtausenddreihundertsiebenundfünfzig.
1000000	eine Million (Pl. Millionen)
1000000000	eine Milliarde (Pl. Milliarden)

註 1) 数字の讀方:

千位を以て一單位とします。幾百萬の数字も百位までの讀み方に従つて、各の單位の名を附して讀めばよいのであります。

Milliarden Millionen Tausend

2 2 , 3 3 3 , 4 4 4 , 5 5 5

zweiundzwanzig **Milliarden** dreihundertdreiunddreißig

**Millionen** vierhundertvierundvierzig**tausend**fünfhundertfünfundfünfzig.

但し年號の讀み方は百位を單位にします——

1933 = neunzehnhundertdreiunddreißig.

1618 = sechzehnhundertundachtzehn

## 2) 数字の書方:

数字は文字を用ふる場合は如何ほど長くとも百萬までは一語に書かれなければなりません。此のことは正書法の要求する所であります。若し簡単に書きたいときは数字で書けばよい譯です。

## 3) ein に就いて:

a. 単に一二三と數を呼ぶときは eins を用ひ、その次に名詞又はその他の數詞あるときは ein となります。

例、hundertundeins ; ein Mann, eintausend.

b. ein が名詞と結合するときは不定冠詞の變化に従ひ、定冠詞の後にあるときは形容詞の弱變化をなします。

例、Ich habe einen Bleistift, eine Feder und ein Buch.

[私は一本の鉛筆と、一個のペンと、一冊の本を持つてゐる——不定冠詞との區別は文意によつて知るより他に方法はありませぬ。發音は但し多少強聲でなされます。]

Das eine Buch ist besser als das andere.

[この本の方が他の本よりよい]

c. 名詞的に單獨に用ひらるる場合は dieser と同じ變化をなします。

Es war nur einer da. [只一人の人しかそこにゐなかつた]

## 2. 序數

第一、第二等と數へる場合、之を序數と云ひます。

序數の作り方は次のようであります。

a. 基數+te (1 より19まで。但し1,3,8 は特殊の變化をなします)

b. 基數+ste (20以上)。

der (die, das) erste 第一

#	zweite	第二
#	dritte	第三
#	vierte	第四
#	fünfte	第五
#	achte	第八
#	zwanzigste	第二十
#	dreißigste	第三十
#	hundertste	第百
#	tausendste	第千

## 序數の變化

序數は上に示したが如く普通定冠詞を伴ふものであります。變化は形容詞の弱變化に従ひます。

併し時には他の規定詞を伴ひ、又は全然規定詞をとらずして用ひらるることがあります。前者の場合は形容詞の混合變化に、後者の場合は強變化に従ひます。

例 a. 弱變化: die erste Stadt 第一の都, das dritte Fenster 第三番目の窓。

b. { 混合變化: mein vierter Bruder [私の第四番目の兄弟]  
強變化: erster Band [第一卷]

年、月、日及び第何世を示す序數:

1. 日附に於ける年は基數を用ひて表はし、月は各月の名稱を用ひ、日數は序數第一格によつて表はします。

der 15. Mai 1818 (der fünfzehnte Mai achtzehnhundertundachtzehn)

2. 書簡の日附は第四格を用ひます。

Berlin, den 1. Februar 1928.

3. 文中に表はれた日数には am を冠する三格の序数、又は定冠詞を有する四格の序数を用ひます。これ等は英語の「on the」に該當します。

Er ist am zehnten Juli in Tokio angekommen.

〔彼は七月十日に東京へやつてきた〕

Meine Tochter ist den fünfzehnten März geboren.

〔私の娘は三月十五日に生れた〕

4. 君主第何世を示すときは「定冠詞+序数(花文字を用ふ)」にて表します。

Wilhelm der Zweite, Karl der Fünfte.

(ウイリアム二世) (カール第五世)

### 3. 分数、反覆数、倍数、種数、分類数

#### a. 分数

$\frac{1}{2}$  ein halb, halb  $1\frac{1}{2}$  anderthalb, ein und ein halb

$\frac{1}{3}$  ein drittel  $2\frac{1}{3}$  dritthalb, zwei und ein halb

$\frac{1}{4}$  ein viertel  $3\frac{1}{4}$  viertelhalb, drei und ein halb

$\frac{2}{5}$  zwei fünftel  $4\frac{2}{5}$  vier (und) zwei drittel

$\frac{5}{25}$  fünf fünfundzwanzigstel

$7\frac{6}{8}$  sieben (und) sechs achteil

註 分子を呼ぶには基数を用ひ、分母は序数の原形(語尾eを除いたもの)に el を附して作ります。即ち定冠詞を有する序数に 1 を附すると覚えておいてもよいです。只  $\frac{1}{2}$ ,  $1\frac{1}{2}$  等は特別の呼方を持つてゐます。

#### b. 反覆数(基数+mal)

einmal (once), dreimal (thrice), fünfmal (fiftytimes),

manchmal (sometimes) 等。

#### c. 倍数(基数〔又は不定数詞〕+fach〔又は fältig〕)

einfach, einfältig (simple), dreifach, dreifältig (triple), vielfach, vielfältig. (manyfold) 等。

#### d. 種数(基数〔又は不定数詞〕+erlei)

einerlei (of one kind), zweierlei (of two kinds), vielerlei (of many kinds), allerlei (of all kinds) 等。

#### e. 分類数(序数+ens)

erstens (first), zweitens (secondly) 等。

以上五種の中、形容詞的にも用ひらるるものは分数、種数、倍数でありまして、分数(halb 以外)及び種数は語尾變化を行ひません。只倍数のみ形容詞と同様の變化をなします。

ein halbes Jahr [半年]; dreierlei Weine [三種の葡萄酒];

Diese Ware hat den zehnfachen Wert. [此の商品は十倍の價値を持つてゐる]

## 第十二講

### B. 不定数詞

不定数詞は殆んど不定代名詞の全部よりなりたつてゐます。

#### 1. 形容詞的不定数詞:

jeder, mancher, keiner, einige, mehrere, etliche (some), all, viel, wenig, kein, sämtliche (all together) 等。

#### 2. 名詞的不定数詞:

jemand, niemand, jedermann, etwas, nichts, welches 等。

註、(1) の場合の不定数詞はその用法と意味とによつて或る時は不定代名詞とみられ、又或る者は不定形容詞ともみられます。不定代名

詞の場合はその次に名詞を従へませんから形容詞的不定數詞と區別が出来ます。(2)を純然たる不定代名詞とのみ見る學者が多いようですが、私は分類上暫らく Dr. Glanz の説に従つておくことにします。用例は不定代名詞の項を参照して下さい。

### 不定數詞の變化

形容詞的不定數詞の變化は原則として形容詞の三種の變化の何れかに従ひます。

但し all, viel, wenig は全然語尾變化をなさないで用ひらるることが屢々あります。

mehrere には單數形はありません。kein は名詞的に用ひたときは keiner, keine, keines と強變化を行ひます。

### 例解

- Aller Anfang ist schwer. [凡て初めといふものは難しいものだ]
- Alle Menschen sind sterblich. [凡て人は死すべきものである]
- All seine Arbeit war vergeblich. [凡ての彼の働きは無駄であつた]
- Mancher Mensch hat viel Glück. [多くの幸福を持つ人もある]
- Hier spielen viele Kinder. [こゝに澤山の子供が遊んでゐる]
- Ich esse wenig Brot. [私はパンを余り食べない]
- Einige Vögel können nicht fliegen. [或る鳥は飛ぶことが出来ない]
- Man hat Sie schon mehrere Male gerufen. [君を幾度も呼んでみたよ]

- Er hat kein Talent. [彼は才能なんかない]
- Keiner (=Kein Mensch) kann ewig auf der Erde leben. [誰も永遠にこの世に生きることは出来ない]

### 數詞の例題

1. Er hat fünfundzwanzig Jahre gelebt.
2. Das Heer besteht aus neunzigtausendsechshundert Mann.
3. Es sind in diesem Dorfe siebzehnhundert Seelen.
4. Ihr Brief ist datiert vom zweiundzwanzigsten April neunzehnhundertneunundzwanzig.
5. Unser Onkel wird den dreizehnten nächsten Monats ankommen.
6. Dieses Schloß wurde unter Friedrichs des dritten Regierung erbaut.
7. Diese Straße ist noch einmal so lang als die andere.
8. Ich bin zweimal um die Stadt geritten.
9. Ein Erdbeben hat die Stadt halb abgebrannt.
10. Wenn Sie Ihr Feld bestellen wird sich sein Wert ver Hundertfachen.

### 解答

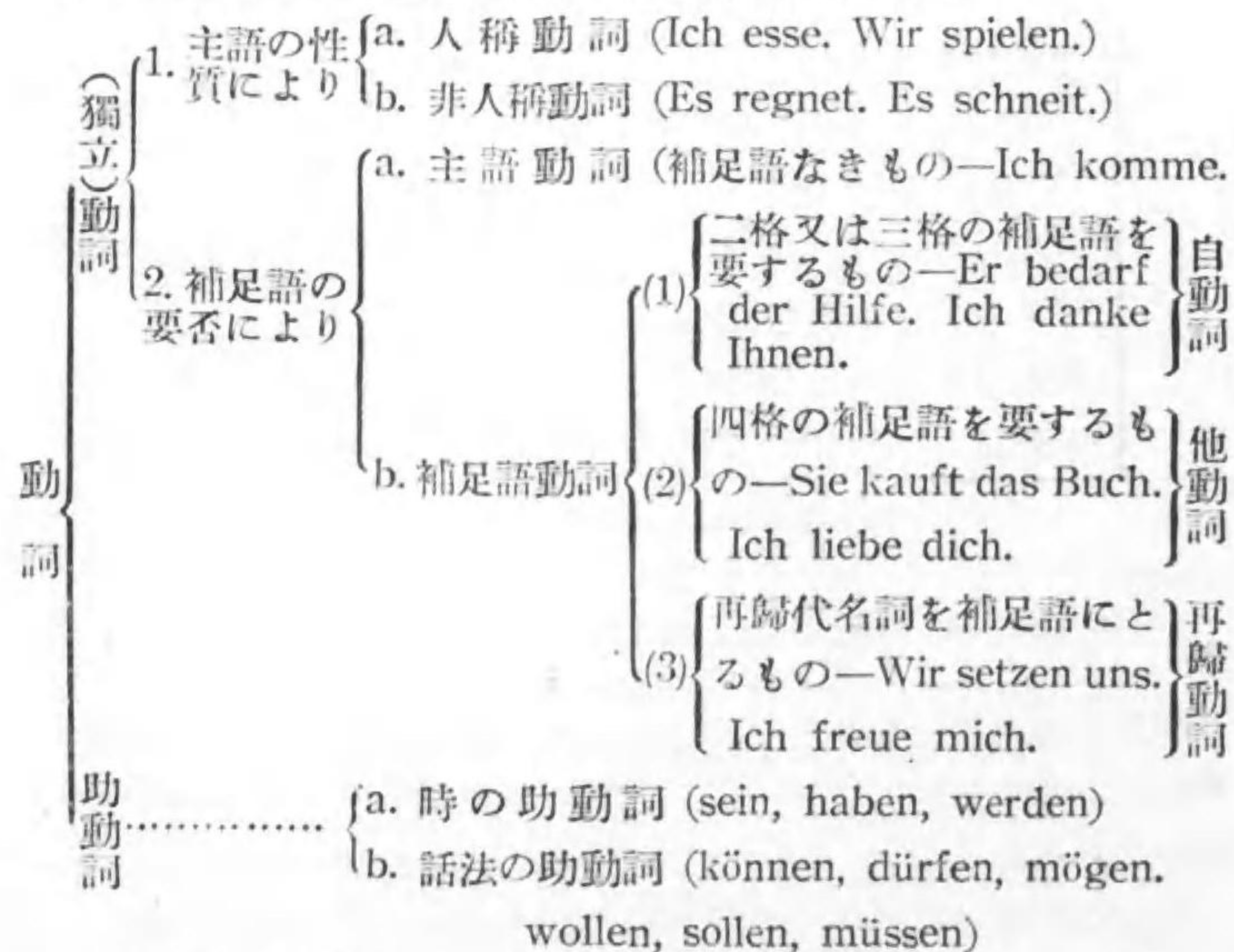
1. He lived twenty-five years.
2. The army consists of ninety thousand six hundred men.
3. There are in this village one thousand seven hundred inhabitants.
4. Your letter is dated April the twenty-second, nineteen twenty nine.
5. Our uncle will arrive on the thirteenth of next month.

- 6. This castle was built in the reign of Frederick the Third.
- 7. This street is twice as long as the other.
- 8. I rode twice round the town.
- 9. An earthquake has destroyed half the town.
- 10. If you cultivate your ground, its value will be increased a hundred-fold.

### VII 動詞 (Verbum 又は Zeitwort)

#### 動詞の種類

動詞は之を次のように分類することが出来ます。



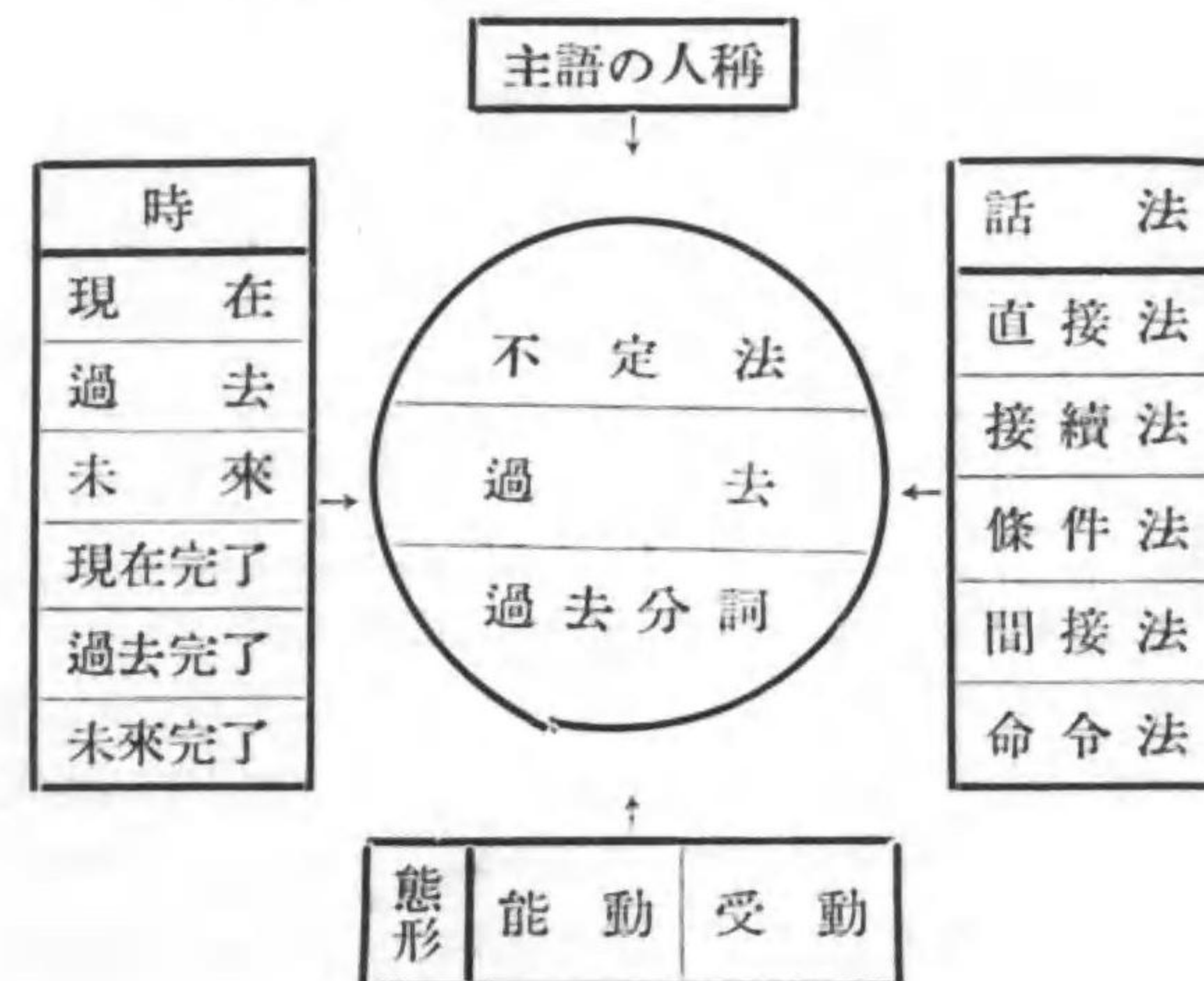
この表中、文法上最も重要な動詞は補足語動詞、非人稱動詞、

及び助動詞の全部であります。此等の動詞に就いては後に各項目を設け詳述することに致します。

#### 動詞の變化

動詞の變化は從來述べました Deklination と全くその性質を異にし、變化も相當複雑になつてゐますから、余程之を組織的に覚えてゆく方法を講ぜねばなりません。

動詞の變化 { 動詞の基礎變化  
動詞の活用變化



圓形の圖に於て示せるが如く、動詞それ自身は英語と同様に、不定法、過去、過去分詞の三つの變化に分れます。之を動詞の基礎變化と名付けます。

所がこの動詞を活用する場合に當つて人稱、時、話法、態形の同時的制約を受けて、この變化形式の上に更に一定の變化が行は

れます。私は之を前者に對して動詞の活用變化と名付けてみます。即ち動詞の變化は此の二つの方面より説明することが出来ます。

### 第十三講

#### A. 動詞の基礎變化

- I. 弱變化 過去、過去分詞に於ける語幹の母音は變ぜず  
 II. 強變化 { 過去、過去分詞に於ける語幹の母音を變ず。其數 165個  
 III. 混合(不規則)變化 { 過去、過去分詞に於ける語幹の母音を變じ、更に語尾變化をなす、其數 18個

#### I 弱變化

##### 變化形式

不定法	過去	過去分詞
—en	—te	ge—t

註 —は動詞の語幹を示します。語幹とは動詞の語尾 en をとり去りたる残りを云ひます。

例.	不定法	過去	過去分詞
	loben (to praise)	lobte	gelobt
	sagen (to say)	sagte	gesagt
	tanzen (to dance)	tanzte	getanzt
◎	語幹の語尾 d, t, m, n なる場合は、過去、過去分詞に e を挿入します。		
	baden (to bath)	badete	gebadet
	atmen	atmete	geatmet

#### II. 強變化

##### 變化形式

不定法	過去	過去分詞
v—en	v'	ge <sup>v,v',v''</sup> en

註 v は幹母音、v' はその第一變化、v, v', v'' はその第二變化を示します。

幹母音變化は次のように整理することが出来ますが、此の規則は余りに抽象的なため記憶に便利なものではありません。併し一應變化の様式を知つておく必要がありますから、こゝに掲げることになりました。

	不定法	過去	過去分詞
1.	e	a	e
2.	e	a	o
3.	i	a	o
4.	i	a	u
5.	ei	i	i
6.	ei	ie	ie
7.	a, o, u, au, ei	ie	a, o, u, au, ei
8.	ie	o	o
9.	e	o	o
10.	a	u	a

例.	不定法	過去	過去分詞
	1. geben (to give)	gab	gegeben
	2. nahmen (to take)	nahm	genommen
	3. beginnen (to begin)	begann	begonnen
	4. singen (to sing)	sang	gesungen
	5. streiten (to dispute)	stritt	gestritten



6. schreiben (to write)	<b>schrieb</b>	geschrieben	
7. {	schlafen (to sleep)	schlief	geschlafen
	stoßen (to push)	stieß	gestoßen
	rufen (to call)	rief	gerufen
	laufen (to run)	lief	gelaufen
	heißen (to name)	hieß	geheißen
8. fliegen (to fly)	flog	geflogen	
9. heben (to lift)	hob	gehoben	
10. tragen (to carry)	trug	getragen	

強變化に屬する名詞の数は少數でありますが、その使用の程度に於ては、他の幾千の弱變化動詞に劣らない程であります。即ち日常必要を感じる動詞の多くは此の強變化に屬してゐます。大抵の辭書又は文法書の卷末に強變化及び混合變化の表が掲げられてあります。之を記憶するには反覆習熟することが一番賢策であると信じます。

### III. 混合變化 (= 不規則變化)

混合變化とは一つは強變化の如く幹母音を變ずると共に、他は弱變化の如く語尾變化をなすものを云ひます。之に屬する名詞の数は極めて少數でありますから、次にその全部を擧げておくことにしました。

例. 不定法	過 去	過去分詞
brennen (to burn)	brannte	gebrannt
denken (to think)	dachte	gedacht
kennen (to know)	kannte	gekannt
nennen (to name)	nannte	genannt
rennen (to run)	rannte	gerannt
senden (to send)	sandte	gesandt

wenden (to turn)	wandte	gewandt
bringen (to bring)	brachte	gebracht
wissen (to know)	wußte	gewußt
tun (to do)	tat	getan
gehen (to go)	ging	gegangen
sein (to be)	war	gewesen
haben (to have)	hatte	gehabt

及び sollen 以外の話法の助動詞 (können, mögen, dürfen, müssen, wollen) の五種はこの變化に屬します。

註、過去分詞は常に ge の前綴をとりますが、アクセントを有しない前綴 **be, emp, ent, er, ge, miß, ver, zer, voll, hinter, wider** を冠する語と語尾 **ieren** をとる動詞には ge を附しません。

例. 不定法	過去分詞
bedeuten (to mean)	bedeutet
empfangen (to receive)	empfangen
verlieren (to lose)	verloren
gehörchen (to obey)	gehört
studieren (to study)	studiert

### 不定法、過去、過去分詞の用法

#### 1. 不定法:

- 不定法は現在及び未來を示す基礎形であります。
- 不定法には zu を附する場合と、附せない場合とがあります。

例 Ich kann deutsch sprechen.  
 [私は獨逸語を話せる]  
 Sie haben das zu erklären.

〔君はそれを説明せねばならない〕

- c. 「不定法+d」は形容詞又は副詞として使用され、動作の繼續を意味します。所謂現在分詞なるもの之れであります。

例 die drohende Gefahr

〔切迫せる危険——形容詞〕

siedend heißes Wasser

〔煮え立つような湯——副詞〕

## 2. 過去:

過去は只過去の時を示す基礎形となつてゐるばかりです。

## 3. 過去分詞:

- a. 助動詞と共に用ひて現在完了、過去完了、未來完了を示す基礎形であります。之は動詞の活用變化の項に説明してあります。
- b. 受動を表す基礎形ともなります。動詞の能動及び受動の項を参照願ひます。
- c. 主として受動を意味する形容詞又は副詞となります。所謂過去分詞なる名稱を有する所以であります。

例 ein gelesenes Buch

〔讀まれた本 (不定法 lesen)——形容詞〕

ein ausgezeichnet gelehrter Mann

〔すぐれて學識ある人 (不定法 auszeichnen, lehren)——前者は副詞、後者は形容詞〕

## 第十四講

### B. 動詞の活用變化

以上申し上げた所は動詞の内部に行はるる基礎變化であります。これから述べる所は動詞を活用するに當り、外部の四つの方面、即ち主語の人稱、時、話法、態形より色々の制約をうけて、さらに行はるる變化形式であります。この點は英語より著しく組織的になつてゐる代り、又その規則の複雑も免れることは出来ません。

主語の人稱によつて變化する語尾は「時」を通じてなされる故、今之を三つの方面より説明する方が、便宜であらうと思ひます。

動詞の活用變化:

- I 時 (Tempora)  
 II 態形 (Genus=Aktiv und Passiv)  
 III 話法 (Modus)

### I 時

#### a. 現在 (Präsens)

變化形式

一人稱	ich—e	wir—en
二人稱	{ du—(e)st	ihr—(e)t
	{ (Sie—en)	
三人稱	er—(e)t	sie—en

註 1. —は語幹を示します。

2. (e)は語幹の語尾が d, t, m, n, s, sch, z 等に終るとき挿入します。

#### 現在の人稱語尾

此等の變化語尾は主語の人稱及び數によつて異なる故、之を現在

の人稱語尾と稱します。

例.

- (1) ich liebe (love) wir lieben  
 du liebst ihr liebt  
 (Sie lieben)  
 er liebt sie lieben
- (2) ich rede (speak) wir reden  
 du redest ihr redet  
 (Sie reden)  
 er redet sie reden

#### 強變化動詞の母音變化

強變化動詞の母音 **a, e** が、單數二人稱及び三人稱に於ては次の如く母音を變化します。之を Brechung と申します。

- (a) 幹母音 **a** は **ä** に變じます。  
 (b) 幹母音 **e** が長音なるとき **ie** に、短音なるとき **i** に變じます。

例: schlagen (to beat) sehen (to see) sprechen (to speak)  
 ich schlage ich sehe ich spreche  
 du schlägst du siehst du sprichst  
 er schlägt er sieht er spricht

b. 過去 (Imperfekt)

變化形式

一人稱	ich ~	wir ~(e)n
二人稱	{ du ~st	ihr ~(e)t
	(Sie ~(e)n)	
三人稱	er ~	sie ~(e)n

註 1. ~は基礎變化に於ける過去を示します。

2. 此變化を過去の人稱語尾と名付けます。

- 例. (1) ich liebte wir liebten  
 du liebtest ihr liebtet  
 (Sie liebten)  
 er liebte sie liebten

註 liebte は lieben の弱變化過去形。

- (2) ich schlug wir schlugen  
 du schlugst ihr schlugt  
 er schlug sie schlugen

註、schlug は schlagen (to beat) の強變化過去形。

此の次は未來及び現在、過去未來の完了形の説明に移る筈ですが、此等の時を表はすには助動詞を必要とします故、以下助動詞に就いて申上げることになります。

### 助動詞

#### 助動詞の種類

助動詞には二種あります。

A. 時の助動詞 (temporale Hilfszeitwörter)

1. sein (to be) 2. haben (to have) 3. werden (shall)

B. 話法の助動詞:

英語の potential mood に用ひらるる can, may, must 等に該當する助動詞であります。之に就いては接續法の項で説明することになります。

#### 時の助動詞の變化

時の助動詞は獨立動詞と稍異つた變化が行はれます。此の變化は時の助動詞を獨立動詞として用ひた場合も亦同じであります。

## 1. sein :

現在形		過去形
ich bin (I am)	wir sind	ich war - wir waren
{ du bist	ihr seid	du warst ihr wart
{ (Sie sind)		(Sie waren)
er ist	sie sind	er war sie waren

## 2. haben :

現在形		過去形
ich habe (I have)	wir haben	ich hatte wir hatten
{ du hast	ihr habt	du hattest ihr hattet
{ (Sie haben)		(Sie hatten)
er hat	sie haben	er hatte sie hatten

## 3. werden :

現在形		過去形
ich werde (I shall)	wir werden	ich wurde wir wurden
{ du wirst	ihr werdet	du wurdest ihr wurdet
{ (Sie werden)		(Sie wurden)
er wird	sie werden	er wurde sie wurden

## c. 未來 (Futurum I.) = werden + 現在不定法

一人稱	ich werde	wir werden
二人稱	du wirst	ihr werdet
三人稱	er wird	sie werden
	(二人稱 Sie werden + 不定法)	

例	ich werde sehen	wir werden sehen
	du wirst sehen	ihr werdet sehen
	(Sie werden sehen)	
	er wird sehen	sie werden sehen

## 未來の用法

未來は單に時を表すのみならず、現在に於ける動作及び状態に疑念を抱く場合にも用ひられます。但しこの場合一般に wohl (perhaps) なる語を従へます。

例. Es wird wohl so sein. [或はさうかも知れない]

Viele Leute werden es wohl so glauben.

[多くの人々はそれをさう信じてゐるのかも知れない]

## 動詞の例題 I. (現在、過去、未來)

1. Ich bin nicht befriedigt.
2. Wir sind in Gefahr.
3. Er hat Butter und Käse.
4. Sie haben keinen Schlank.
5. Ich wohne in diesem Hause.
6. Ich war unruhig.
7. Wir hatten keine Pantoffel.
8. Sie waren nicht im Theater.
9. Wohnte dein Bruder in Berlin?
10. Er blieb sehr lange.
11. Wir blieben nicht bei jenen Herren.
12. Ich werde nachsichtig sein.
13. Es wird ein Unglück sein.
14. Wird er dieses Buch haben?
15. Wir werden zwei Tage in Basel bleiben.

## 解答

1. I am not satisfied.

2. We are in danger.
3. He has some butter and cheese.
4. They have no cupboard.
5. I live in this house.
6. I was anxious.
7. We have no slippers.
8. You were not in the theater.
9. Was your brother living in Berlin?
10. He stayed a long time.
11. We were not staying with those gentlemen.
12. I shall be indulgent.
13. It will be a misfortune.
14. Will he have this book?
13. We shall stay two days in Basel.

## 第十五講

d. 現在完了 (Perfekt) =  $\begin{cases} \text{sein} + \text{過去分詞} \\ \text{haben} + \text{過去分詞} \end{cases}$

一人稱	ich bin; habe	} + 過去分詞	wir sind; haben	} + 過去分詞
二人稱	du bist; hast		ihr seid; habt	
三人稱	er ist; hat		sie sind; haben	
(二人稱 Sie sind; haben + 過去分詞)				

### 現在完了の用法

- 1) 現在完了は主として會話に於て、過去は會話以外に於て大體用ひられてゐます。それは文の調子及び時稱の混亂を避ける爲に、使用されるに至つたのであります。例へば Er tanzte. (彼

はダンスした)に於て Er hat getanzt. といふ方語調がよく、又現在形 Er tanzt. との區別が一層明瞭となります。勿論この二つの時稱の起りは時の關係より生じたものでありませうが、用法上から云へば時の觀念が殆んど無くなつてゐることに氣付かねばなりません。一體文法知識に乏しき獨逸人が過去と現在完了の何れが遠き過去に屬するかと尋ねられたときは彼等は大抵答へに窮するものであります。未だ記憶に生々しく残る數時間の前の事件も新聞記事となれば凡て過去を用ひられるのを見ても、大體慣用上の區別と見るべきでありませう。

- 2) 「haben + 過去分詞」と「sein + 過去分詞」の相違:

(a) 「sein + 過去分詞」場所の移動、状態の變化を表す一切の自動詞は sein と結合します。

例 Ich bin gekommen, abgereist, aufgewacht.

[私はやつてきた、旅立つた、目を覺した]

(b) 「haben + 過去分詞」凡ての他動詞及び sein と結合し得ざるその他の自動詞は haben と結合します。

例 Ich habe den Brief geschrieben. [私は手紙を書いた]

Wir haben fleißig gearbeitet [私は熱心に働いた]

註、文法書の中には運動を表す自動詞の中にも、sein と結合し得ざる場合もある例として、目的地を有せざる運動、局限された空間中に起れる運動、或は一定の時間内に起れる運動は haben と結合すると、注意した本もありますが、それ等は只 sein 以外に場合によつては haben を用ひても差支へないと云ふ程度の規定で、極めて特殊の場合を除く外は矢張り sein と結合して用ひられてゐます。そして又それは文法的にも決して誤ではありません。

- 3) sehen, hören (to hear) fühlen (to feel), helfen (to help)

等の動詞が他の動詞と結合して現在完了又は次に述べる過去完了を示す場合、その動詞は不定法を用ひて過去分詞を用ひません。

例 Ich habe das Kind spielen sehen. (gesehenにあらず)

[私はその子供が遊んでゐるのを見た]

Ich habe das Mädchen singen hören (gehörtにあらず)

[私がその少女が歌つてゐるのを聞いた]

e. 過去完了 (Plusquamperfekt) =  $\left. \begin{array}{l} \text{sein の過去} \\ \text{haben の過去} \end{array} \right\} + \text{過去分詞}$

一人稱	ich war; hatte	} + 過去分詞	wir waren; hatten
二人稱	du warst; hattest		ihr war(e)t; hattet
三人稱	er war; hatte		sie waren; hatten
(二人稱 Sie waren; hatten)			

#### 過去完了の用法

過去完了は遠き過去の事實を示します故、nachdem (after, when) などの接續詞の次によく用ひられます。

例 Damals war ich schon zurückgekommen.

[その當時私は既に歸つてゐた]

Als er das gehört hatte, erschrak er.

[彼はそのことを聞き終つたとき吃驚した]

Nachdem ich dir Waren gekauft hatte, sandte ich sie sofort. [私はこの品物を買つた後直ぐそれを送つた]

f. 未來完了 (Futurum II.) = werden + 過去分詞 +  $\left. \begin{array}{l} \text{sein} \\ \text{haben} \end{array} \right\}$

一人稱	ich werde	} + 過去分詞 +	wir werden	} + 過去分詞 +	
二人稱	du wirst		ihr werdet		} $\left. \begin{array}{l} \text{sein} \\ \text{haben} \end{array} \right\}$
三人稱	er wird		sie werden		

二人稱: Sie werden + 過去分詞 +  $\left. \begin{array}{l} \text{sein} \\ \text{haben} \end{array} \right\}$

#### 未來完了の用法

未來完了は或る行爲が既に未來に於て成し遂げられたであらうと考へるときに用ひられますが又それと同時に現存完了の事實に疑念を挟む際にも適用されます。

#### 例解.

- (a) • Ich werde vor seiner Ankunft diese Arbeit fertig gemacht haben. [私は彼の到着前にこの仕事を片付けて了つてゐるであらう]
- Wir werden auf den Berg gestiegen sein, wenn die Sonne aufgeht. [吾々は太陽が昇る頃には山へ登つて了つてゐるであらう]
- (b) • Er wird das wohl getan haben. [彼はそれを爲したのかも知れない]
- Sie wird dort wohl gewesen sein. [彼はそこにゐたのかも知れない]

#### 動詞の例題 II. (現在、過去、未來の完了形)

1. Ich habe den ganzen Tag gearbeitet.
2. Haben Sie Ihr Geld gewechselt?
3. Wir sind in einem Garten gewesen.
4. Haben Sie noch nicht zu Mittag gegessen?
5. Wir sind ringsherum gegangen.
6. Er ist gestorben, wie er gelebt hat.
7. Wir hatten Obst gehabt.
8. Hatte er bei seinem Bruder gefrühstückt?

9. Ich war sein Schüler gewesen.
10. Die Vorstellung war lang gewesen.
11. Sie waren böse gewesen.
12. Ich werde Kirschen gehabt haben.
13. Er wird bald alle sein Schulden bezahlt haben.
14. Werden Sie nicht bald Ihre Bücher gefunden haben?
15. Werden sie es gewesen sein?

## 解答

1. I have been working all day.
2. Have you changed your money?
3. We have been in a garden.
4. Haven't you dined yet?
5. We went all round.
6. He has died as he has lived.
7. We had had some fruit.
8. Had he breakfasted at his brother's?
9. I had been his pupil.
10. The performance had been long.
11. They had been naughty.
12. I shall have had some cherries.
13. He'll have paid all his debts within a short time.
14. Shan't you soon have found your books?
15. Will it have been they?

## II. 態形(能動、受動)

これより態形による動詞の活用變化の説明に移ります。従來の文例は盡く能動形を示し、受動形には少しも觸れてゐませんでした。受動形は凡て次の公式によつて作らるるものであります。

受動形 = werden + 過去分詞

## 受動形の變化

## a. 現在

Ich werde	} + 過去分詞	wir werden	} + 過去分詞
du wirst		ihr werdet	
er wird		sie werden	
(二人稱 Sie werden + 過去分詞)			

## 例解.

- Ich werde gelobt. [私は褒められる; gelobt の不定法 loben]
- Der faule Schüler wird von dem Lehrer bestraft.  
[怠惰の生徒は先生から罰せられる; bestraft の不定法 strafen]

## b. 過去

ich wurde	} + 過去分詞	wir wurden	} + 過去分詞
du wurdest		ihr wurdet	
er wurde		sie wurden	
(二人稱: Sie wurden + 過去分詞)			

## 例解.

- Sie wurde geliebt. [彼は愛された]
- Er wurde von ihr betrogen. [彼は彼女に欺された;  
betrogen の不定法 betrügen]

## c. 未來

ich werde	} + 過去分詞	wir werden	} + 過去分詞
du wirst		ihr werdet	
er wird		sie werden	
(二人稱 Sie werden + 過去分詞 + werden)			

## 例解

- Er wird gelacht werden. [彼は笑はれるであらう]
- Die Regatta wird am nächsten Sonntag gehalten werden. [ボートレースは次の日曜日に行はれる]
- In 24 Stunden wird die Exekution an den Gefangenen vollzogen werden. (囚人に對する死刑の執行は二十四時間以内に行はれるであらう; vollzogen の不定法は vollziehen)

## 第十六講

## d. 現在完了

ich bin	} + 過去分詞 + worden	wir sind	} + 過去分詞 + worden
du bist		ihr seid	
er ist		sie sind	
(二人稱: Sie sind + 過去分詞 + worden)			

註、werden の過去分詞は geworden であるが、受動形に於ては worden を用ひます。それはその前にある動詞の過去分詞との關係上、ge の重複を避けた爲であります。

## 例解.

- Ich bin geschlagen worden. [私は殴られた]
- Ich bin von dem Hunde gebissen worden. [私は犬に噛まれた; gebissen の不定法は beißen]
- Die Vernunft ist den Menschen von dem Gott gegeben worden. [理性は人類に神より賦與されたものである]

## e. 過去完了

ich war	} + 過去分詞 + worden	wir waren	} + 過去分詞 + worden
du warst		ihr waret	
er war		sie waren	
(二人稱: Sie waren + 過去分詞 + worden)			

## 例解.

- Ich war eingeladen worden. [私は招待されてゐた]
- Das Kind war schon gerettet worden als der schutzmännchen herbeilief. [巡査が駆けつけてきた時にはその子供は既に救はれてゐた]

## f. 未來完了

ich werde	} + 過去分詞 + worden	wir werden	} + 過去分詞 + worden
du wirst		ihr werdet	
er wird		sie werden	
(二人稱 Sie werden + 過去分詞 + worden + sein)			

## 例解.

- Das Buch wird übersetzt worden sein, wenn ich wieder hier komme. [この書物は私が今度こゝへ來るときには翻譯されて了つてゐるであらう]
- Der Hase wird von den Hunden verfolgt worden sein. [あの兎は犬に追つかかれたであらう]

## 受動形の用法上の注意:

- 凡ての完了形に於ける worden は省略されることが屢々あります。  
例 Ich bin gezwungen (worden). [私は強ひられた]
- 能動形を用ひて受動の意味を表はす場合も多く見られます。再歸代名詞 + 他動詞又は sich + 他動詞の不定法 +



lassen 等はその主なる場合であります。

- Das Fenster öffnete sich. [窓は開かれた]
- Diese Aufgabe lassen sich leicht antworten [此の問題は容易く答へられる]

### 動詞の例題 III (受動形)

1. Er wird von jedermann bewundert.
2. Sie werden von allen Ihren Verwandten beehrt.
3. Du wurdest getadelt.
4. Er wurde wegen seiner Geschicklichkeit gelobt.
5. Ich werde bestraft werden.
6. Sie wird betrogen werden.
7. Ich bin eingeladen worden.
8. Dieses Kind ist noch nicht getauft worden.
9. Er war gut aufgenommen worden.
10. Sie war nicht benachrichtigt worden.
11. Ich werde geschätzt worden sein.
12. Sie werden getötet worden sein, ehe du kommst.

### 解答

1. He's admired by everybody.
2. You are honoured by all your relatives.
3. You were blamed.
4. He was praised for his skill.
5. I shall be punished.
6. She'll be deceived.
7. I've been invited.
8. This child hasn't been baptised.
9. He had been well received.

10. She hadn't been informed.
11. I should be esteemed.
12. They'd be killed before you come.

### c. 話法

#### 話法の種類

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| I. 直接法 (Indikativ)       | II. 接續法 (Konjunktiv)      |
| III. 条件法 (Konditionalis) | IV. 間接話法 (indirekte Rede) |
| V. 命令法 (Imperativ)       |                           |

#### I. 直接法。

従来示しました文例は凡て直接法であります。直接法とは或る動作又は状態等を肯定的又は否定的事実として確定的に言ひ表はす動詞の形式であります。

#### II. 接續法。

接續法は英語の subjunctive mood に該当します、即ち假定的、疑惑的、想像的な事実、換言すれば不確實的な事実を言ひ現はす話法であります。接續とは動詞の不確實な結合状態を意味します。之を可能法と譯す人もあります。

#### III. 条件法。

条件法は接續法の一つであります、その表現方法が接續法と異つてゐます故、こゝに別に取扱つた次第であります。

#### IV. 間接話法。

他人の話の間接に引用する文法上の形式でありまして、動詞は接續法を用ひます。

#### V. 命令法。

命令法は英語の imperative mood と異なる所ありません。

### 接續法

これより愈々獨逸語の最大の難關と目されてゐる接續法の説明に入ります。この峻険を突破すれば後は坦々たる原野が展かれ、何の苦もなく進み得るわけです。

### 接續法に於ける動詞の時の變化

接續法の動詞の時の變化は直接法の場合と大體共通してゐますが、只相違する主なる點は主語の人稱、數の如何を問はず、凡て動詞の末尾に e を挿入又は附加することでありませぬ。

#### a. 現在

ich	liebe	trage	gebe
du	liebest	tragest	gebest
er	liebe	trage	gebe
wir	lieben	tragen	geben
ihr	liebet	traget	gebet
sie	lieben	tragen	geben

#### b. 過去

	(弱變化)	(強變化)
ich	liebte	trüge (不定法 tragen)
du	liebtest	trügest
er	liebte	trüge
wir	liebten	trügen
ihr	liebtet	trüget
sie	liebten	trügen

註 1. 直接法現在の強變化動詞は、單數二人稱及び三人稱に於て幹母音變化即ち Brechung が行はれますが、接續法にては幹母音を變ずることありませぬ。

2. 過去に於ける弱變化動詞は直接法と同一の變化をなしますが、強變化動詞は幹母音を變母音に變へませぬ。

- c. 未 來 { 此等は凡て直接法の時の變化と同じく、  
 d. 現在完了 { 「時の助動詞」を必要とし、この助動詞  
 e. 過去完了 { のみが直接法の場合と多少異つた變化  
 f. 未來完了 { 形式をとる丈であります。

接續法に於ける「時の助動詞」の變化：

sein :

現 在		過 去	
ich sei	wir seien	ich wäre	wir wären
du seiest	ihr seiet	du wärest	ihr wäret
er sei	sie seien	er wäre	sie wären
(Sie seien)		(Sie wären)	

haben :

ich habe	wir haben	ich hätte	wir hätten
du habest	ihr habet	du hättest	ihr hättet
er habe	sie haben	er hätte	sie hätten
(Sie haben)		(Sie hätten)	

werden :

ich werde	wir werden	ich würde	wir würden
du werdest	ihr werdet	du würdest	ihr würdet
er werde	sie werden	er würde	sie würden
(Sie werden)		(Sie würden)	

## 第十七講

### 接續法に於ける時稱

接續法はその時稱により、接續法の意味を二つに大別すること

が出来ます。

### I. 定動詞現在形。

事實となり得る可能性ありと考へらるゝときに用ひられます。此の場合、各時稱を示す定動詞（主語の人稱及び數に一致する動詞——文章論参照）には現在形を用ひることになつてゐます。

能 動	受 動
現在：er singe.	er werde gesungen.
未來：er werde singen.	er werde gesungen werden
現在完了：er habe gesungen.	er sei gesungen worden.
未來完了：er werde gesungen haben.	er werde gesungen worden sein.

### II. 定動詞過去形。

主として事實となり得る可能性なき場合に用ひられ、定動詞は過去形となつてゐます。此の場合に於ける動詞の過去は現在の意味を、過去完了は過去の意味を表します。次に述べる條件法も非可能的假定を表はす故、此の部類に屬すべきであります。

能 動	受 動
過去：er sänge	er würde gesungen
過去完了：er hätte gesungen	er wäre gesungen worden

今接續法の實例を示し、その用法を明にしたいのでありますがそれには話法の助動詞を必要とするところもありますから、先に話法の助動詞に就いて説明することにします。

#### 話法の助動詞

前にも申上げたように助動詞に二種あります。第一は時の助動詞 sein, haben, werden の三語で、第二は次に掲ぐる話法の助動

詞六種であります。話法の助動詞は主動詞に附して主としてその動詞の表はす動作及び状態の可能又は必然を示すものであります。直接法に於ける話法の助動詞は既に再三文例に於て示したことがあります。

1. können (can)
2. dürfen (may, to be allowed)
3. mögen (may, to like, to dare)
4. müssen (must, to be obliged to)
5. sollen (shall, should, to be said to)
6. wollen (will, wish, to want)

#### 話法の助動詞の變化

A. 直接法に於ける話法の助動詞の變化

B. 接續法に於ける話法の助動詞の變化

#### A. 直接法に於ける話法の助動詞の變化

(現在)

	können	dürfen	mögen	müssen	sollen	wollen
ich	kann	darf	mag	muß	soll	will
du	kannst	darfst	magst	mußt	sollst	willst
er	kann	darf	mag	muß	soll	will
wir	können	dürfen	mögen	müssen	sollen	wollen
ihr	könnt	dürft	mögt	müsst	sollt	wollt
sie	können	dürfen	mögen	müssen	sollen	wollen

(過去)

	können	dürfen	mögen	müssen	sollen	wollen
ich	konnte	durfte	mochte	mußte	sollte	wollte
du	konntest	durftest	mochtest	mußtest	solltest	wolltest
er	konnte	durfte	mochte	mußte	sollte	wollte
wir	konnten	durften	mochten	mußten	sollten	wollten

ihr	konntet	durftet	mochtet	mußtet	solltet	wolltet
sie	konnten	durften	mochten	mußten	sollten	wollten

(未來)

ich werde	} können, dürfen, mögen, müssen, sollen, wollen
du wirst	
⋮	

(現在完了)

ich habe	} gekonnt, gedurft, gemocht, gemußt, gesollt, gewollt.
du hast	
⋮	

(過去完了)

ich hatte	} gekonnt, gedurft, gemocht, gemußt, gesollt, gewollt.
du hattest	
⋮	

(未來完了)

ich werde	} gekonnt, gedurft, gemocht, gemußt, gesollt, gewollt } haben
du wirst	
⋮	

## B. 接續法に於ける話法の助動詞の變化

(現在)

	können	dürfen	mögen	müssen	sollen	wollen
ich	könne	dürfe	möge	müsse	solle	wolle
du	könnest	dürfest	mögest	müssest	sollest	wollest
er	könne	dürfe	möge	müsse	solle	wolle
wir	können	dürfen	mögen	müssen	sollen	wollen
ihr	könnet	dürfet	möget	müset	sollet	wollet
sie	können	dürfen	mögen	müssen	sollen	wollen

(過去)

	können	dürfen	mögen	müssen	sollen	wollen
ich	könnte	dürfte	möchte	müßte	sollte	wollte
du	könntest	dürftest	möchtest	müßtest	solltest	wolltest
er	könnte	dürfte	möchte	müßte	sollte	wollte
wir	könnten	dürften	möchten	müßten	sollten	wollten
ihr	könntet	dürftet	möchtet	müßtet	solltet	wolltet
sie	könnten	dürften	möchten	müßten	sollten	wollten

(未來)

ich werde	} können, dürfen, mögen, müssen, sollen, wollen.
du werdest	
⋮	

(現在完了)

ich habe	} gekonnt, gedurft, gemocht, gemußt, gesollt, gewollt.
du habest	
⋮	

(過去完了)

ich hätte	} gekonnt, gedurft, gemocht, gemußt, gesollt, gewollt.
du hattest	
⋮	

(未來完了)

ich werde	} gekonnt, gedurft, gemocht } haben
du werdest	
⋮	

## 話法の助動詞の用法

## 1. können

能力——Ich kann gut deutsch sprechen.

〔私は獨逸語をよく話すことが出来る〕

許可—Du kannst hier einige Äpfel pflücken.  
〔君はこゝで林檎を數個むしり取つてもよい〕

可能—Diese Nachricht kann wahr sein.  
〔この報告は本當であるかも知れぬ〕

## 2. dürfen

許可—Jedermann darf hier rauchen.  
〔何人もこゝで喫煙して差支へない〕

可能—Es dürfte (=könnte) zu spät sein.  
〔非常に遅いかも知れぬ〕

## 3. mögen

許可—Du magst jetzt ausgehen.  
〔君は今外出しても宜しい〕

可能—Das mag wahr sein.  
〔それは本當かも知れぬ〕

希望—Ich möchte Kaffee trinken.  
〔私はコーヒを飲みたい〕

嗜好—Sie mag die Kleidung gern.  
〔彼女は着物が好きである〕

## 4. müssen

必然—Jeder Mensch muß einmal sterben.  
〔どの人間も一度は必ず死なねばならぬ〕

強制—Er mußte sein Haus verkaufen.  
〔彼は彼の家を賣らねばならなかつた〕

## 5. sollen

義務—Ihr sollt fürs Vaterland kämpfen.  
〔汝等は祖國の爲に闘はざるべからず〕

風聞—Der König soll tot sein.

〔國王は崩御遊されたといふことだ〕

單純な未來—Wenn es morgen regen sollte, so gehe ich nicht aus.

〔明日若し雨が降つたら私は外出しない〕

## 6. wollen

意志—ich will nach Hause gehen.

〔私は家へ行きたい〕

主張—Sie will öfters an Rheumatismus gelitten haben.

〔彼女は屢々リユーマチに罹つたといつてゐる〕

切迫—Es will bald donnern.

〔今に雷が鳴るであらう〕

## 接続法の用法

### I 定動詞現在形の接続法

- a. 願望、希望：主語が一人稱又は三人稱の場合に用ひ、二人稱のときは命令法となります。「不定法+mögen」の接続法を以て書き代へ得るものもあります。

Gehen wir fischen!〔魚釣りに行かうよ〕

Lang' lebe der König!〔國王萬歲〕

Man binde ihn an den Baum!〔誰れか奴を木へ縛りつけてくれたまへ〕

Geh es Ihnen gut! =möge es Ihnen gut gehen!

〔旨く行くように願ふよ〕

- b. 假定、認容：この場合も「不定法+mögen」の接続法を以て書き代へることの出来るものもあります。

Die Figur a, b, c sei ein gleichschenkliches

Dreiecke!〔圖 a b c を等邊三角形とせよ〕

Es sei so, wie Sie gesagt haben.〔君が云つた通

りにまあしておかう]

So schön es auch sei (=So schön es auch sein mag), so kann es mir nichts nützen. [それはたとへ美しからうとも、私は何も利用することは出来ない]

- c. 引用文：或人の考へ又は報告をその儘引用する場合に用ひます。

Sokrates glaubte (sagte) daß die Seele des Menschen unsterblich sei. [ソクラテスは人間の靈魂は不滅であると信じてゐた(と云つた)。]

Die Nachrichten kamen daß alle Brücken zerstört seien. [凡ての橋が破壊されたといふ報告がきた]

## 第十八講

### II 定動詞過去形の接続法。

此接続法の用法は前にも少し説明しておいたように、事實となり得る可能性の無き場合に大體用ひられてゐますが、又事實を遠廻しに言表はす場合にもよく用ひられてゐます。

a. 非事實：

Ohne seine Verschwendungssucht, wäre er jetzt ein reicher Mann. [彼に浪費癖がなかつたならば、彼は今頃は金持となつてゐるであらうに]

Mit Ihrer Hilfe hätte ich mein Ziel erreicht. [君の助けがあつたなら私は目的を達してゐたであらうに]

Er sieht aus, als ob er krank wäre. [彼は病氣であるかのように見える]

- b. 假定：—この場合は一般に次に述べる條件法の方が遙に多く用ひられてゐます。

Ich reiste nach Deutschland, wenn ich Geld hätte.

[私は金さへあれば獨逸へ行きたいのだが]

Er wäre nicht weggegangen, wenn Sie früher gekommen wären.

[君がもつと早く来て居れば、彼は居つたのに]

- c. 否定的結果：副文章の意味が非事實なる場合。

Er ist zu krank, als daß er wieder gesunde werden könnte. [彼は余り病氣が重いから再び健康になることが出来ないであらう]

Keine Gewohnheit ist so stark, daß sie nicht beseitigt werde. [どんな習慣でも取除くことの出来ない程強いものではない]

- d. 願望(實現不可能なる)：

Wäre er nur gesund! [彼は達者であればよいが]

Käme er doch! [彼がくればよいが]

Wäre er doch gekommen! [彼が来てゐればよかつたが]

- e. 疑惑：

Dies wäre Ihre Schwester! [この方が貴方のお妹さんですつて]

Das hättest du getan! [君がこんなことを爲しただらうか]

- f. 推測：

Es möchte gegen acht Uhr sein. [八時頃かも知れぬ]

Die Sache dürfte sich anders verhalten. [事情は又別かも知れぬ]

Es wäre nicht unmöglich, daß er hier ist. [彼が當地にゐることがあり得ないことではないだらう]

## g. 謙讓:

Ich dünkte wohl, daß er sich darin irrte. [それは彼の間違ひではなからうかと思ひますが]

Könnten Sie mir etwas Geld leihen? [少し金を融通して頂くことが出来ないでせうか]

Ich möchte etwas Brot essen. [私は少しパンを食べたい——ich möchte には謙讓の意味が殆んど無くなつてゐる程、余りに一般的な用法であります]

接續法の用法は之を詳しく説明すれば際限はありませんから、これで終ることにしますが、近來接續法に代るに段々直接法を用ひる傾向のあることとは注意すべきことだと思ひます。

**條件法**條件法の意義と用法

條件法とは或る條件の實現不可能なる場合又はその條件が實際の状態に反してゐる場合、**主文章**に於て用ひらるる形であります。即ち接續法の定動詞過去形に屬すべき性質を持つてゐます。動詞は接續法に於ける助動詞 werden を用ひます。假定を示す條件法は接續法以上に實際に於て使用されてゐます。

條件法の種類

I 第一條件法 (Konditionalis I): 現在の時を示す。

II 第二條件法 (Konditionalis II); 過去の時を示す。

## I 第一條件法: (公式 würde+不定法)

Ich würde kommen (=ich käme), wenn ich Zeit hätte.

[私は閑さへあれば來られるのだが]

Ich würde (=ich reiste) nach Deutschland fahren, wenn ich Geld hätte. [金があれば獨逸へ行きたいのだが]

II 第二條件法: (公式 würde + 過去分詞 +  $\begin{cases} \text{sein} \\ \text{haben} \end{cases}$ )

Ich würde gekommen sein (=ich wäre gekommen, wenn ich Zeit gehabt hätte. [私は閑さへあつたならば來てゐたのに])

Er würde verloren sein (=er wäre verloren gewesen), wenn ich ein Wort gesagt hätte. [私は一言云つてゐたとしても、彼は駄目になつてゐたであらう]

**間接話法** (indirekte Rede)

話者の言をその儘再現する場合之を直接話法といひ、之を間接に言ひ表はす場合を間接話法と云ひます。間接話法の動詞は常に接續法を用ふることになつてゐます。併し實際の會話に於ては直接法が用ひられ、接續法は殆んど使用されてゐませんが、勿論正しい文法上から云へば誤りであることは云ふまでもありません。

直接話法	間接話法
Er sagte: ich habe Sie gestern gesehen. [彼は「僕は昨日君に會つた」と云つた]	Er sagte, daß er mich gestern gesehen habe.= Er sagte, er habe mich gestern gesehen.
Er sagte: ich will dorthin nicht gehen, [彼は「私はそこへ行きたくないと」云つた]	Er sagte, daß er dorthin nicht gesehen wolle.= Er sagte, er wolle dorthin nicht gehen.
Ich fragte ihn: „wie heißen Sie“?	Ich fragte ihn wie er heiße.

〔私は彼に「貴方のお名前は  
何と申しますか」と尋ねた。

Ich fragte ihn: „ist            Ich fragte ihn, ob  
Ihr Vater krank?“            sein Vater krank sei.

〔私は「貴方のお父さんは御  
病氣ですか」と尋ねた〕。      合は ob (whether, if) を用ひます

### 命令法 (Imperativ)

A. 相手と呼ぶに Sie を用ふる間柄にありましては、次のよう  
な公式に従ひ、単数複数共同一であります。

接續法の現在不定法 (その殆んど全部は直接法現在不定  
法と同形)+Sie!

Sagen Sie mir! [私に云つて下さい]

Singen Sie, bitte! [どうか、歌つて下さい]

Seien Sie ruhig! [静かにして下さい]

B. 相手と呼ぶに du (複数はいhr) を用ふる間柄に於ては、次  
の公式に従ひます。

1. 単数命令法 (相手が一人) 語幹+e!
2. 複数命令法 (相手が二人以上) 語幹+(e)t!

単数	複数
sage!	saget!
singe!	singet!
höre!	hört!

C. 過去分詞又は lassen (let), wollen 等を用ひて、命令法を  
表はす場合があります。

Aufgepaßt! 氣を付け——不定法 aufpassen.

Still gestanden! 止れ——不定法 stehen

Laßt uns gehen!      } 行かうよ  
Wir wollen gehen! }

### 動詞の例題 IV (話法)

1. Gott behütte euch!
2. Wenn du auch Zeit habest, besuche sie doch nicht.
3. Er sagte, er sei krank.
4. Ich wäre sehr glücklich.
5. Wären es jene Herren?
6. Hätte ich nicht die Kühnheit?
7. Es wäre mir lieb, wenn Sie näher wären.
8. Wir würden Zucker haben=Wir hätten Zucker.
9. Wenn ich wohl wäre, würde ich dich begleiten.
10. Ich hätte mein Vaterland verlassen.
11. Hätten Sie diese Bilder gekauft?
12. Er würde gut aufgenommen werden, wenn er  
liebenswürdiger wäre.
13. Er wäre getötet worden, wenn Sie ihn nicht beschützt  
hätten.
14. Ich wollte, Sie hätten mehr Zeit.
15. Ich glaubte, sie wäre in Konzert gewesen.
16. Ich fürchte, meine Bücher würden verdorben werden.
17. Sie hätten höflich sein sollen.
18. Sie sagten, er habe kein Geld.
19. Seien Sie versichert!
20. Holen Sie den Kuchen!



## 解答

1. May God help you!
2. Even if you have time you must not visit her.
3. He said he was sick.
4. I should be very happy.
5. Would it be those gentlemen?
6. Shouldn't I have the boldness?
7. I should be glad, if you were nearer.
8. We should have some sugar.
9. If I were well, I would accompany you.
10. I should have left my country.
11. Should you have bought these pictures?
12. He'd be well received, if he were more amiable.
13. He'd been killed, if you hadn't protected him.
14. I wish you had more time.
15. I thought she had been at the concert.
16. I was afraid my books would be spoiled.
17. You ought to have been more polite.
18. They told me he had no money.
19. (You may) be assured.
20. Go and fetch the cakes.

**動詞の種類** (自動詞, 他動詞, 再歸動詞; 非人稱動詞)

動詞の種類は動詞の項の頭初に於て圖解しておきましたが、其中最も重要なものは補足語動詞即ち自動詞、他動詞、再歸動詞の三種であります。何れの字書を見るも動詞は凡て此等の何れかに分類されて、その用法を示してゐます。即ち動詞全般の代表的分類と見るべきであらうと思ひます。

## 1. 自動詞 (Intransitivum 略語 i.)

自動詞とは原則として補足語をとらない動詞であります。併し時には二格、三格又は前置詞を先行する補足語をとることもあります。此等の實例は次の他動詞、再歸動詞と共に動詞の格支配の項に於て掲げることになりました。

## 2. 他動詞 (transitivum 略語 t.)

他動詞とは四格の補足語をとる動詞であります。併し又之と同時に四格と三格、四格と二格、四格と前置詞を有する補足語をとることもあります。

## 3. 再歸動詞 (Reflexivum 略語 refx.)

再歸動詞とは動作が主語それ自身に復歸してくるものでありまして、既に再歸代名詞の項に於て數例を擧げて簡単に説明した所であります。再歸代名詞と再歸動詞とは品詞の兩側より見た分類であります故、こゝに説明の重複することは免れません。

## 第十九講

**動詞の格支配**

格支配なる言葉は既に形容詞の格支配に於て説明しておきました。即ち或る動詞は補足語として或る格を要求する場合、その格が何格に屬すべきかは既に定つてゐるのであります。今之を前項に於て申上げた自動詞、他動詞、再歸動詞の三つに分けて説明することにします。

## 1. 自動詞の格支配

- a) 補足語を要せざる本來の自動詞。

Das Kind schläft. [子供は眠る]

Der Mann lacht. [あの男は笑つてゐる]

- b) 二格の補足語を支配する自動詞：——此形は主として詩歌に用ひられ實際の會話に於ては勿論、普通の文章に於ても殆んど使用されなくなり、二格に代つて四格の補足語又は前置詞と結合せる三格又は四格の補足語をとるのが普通の形となつてゐます。

例.

bedürfen [要する]  
genießen [享有する]  
vergessen [忘れる]  
hüten [用心する]  
schonen [勞る]

}等は四格をも支配します。

achten [注意する]、harren [固執する]—— auf をも支配します。

spotten [輕蔑する]、schweigen [沈黙する]—— über をも支配します。

例解.

- Er hat seines Versprechens (sein Versprechen) vergessen. [彼は彼の約束を忘れた]
  - Spotte nicht der Unglücklichen [über die Ung.]. [不幸な者を輕蔑するな]
  - Meines Rates (Auf meinen Rat) hat er geachtet. [私の忠告に彼は注意した]
- c) 三格の補足語を支配する自動詞：
- 例. antworten [答へる]、danken [感謝する]、fehlen [缺ける]、helfen [助ける]、trauen [信頼する]、

begegnen [出會ふ] 等。

例解.

- Ich danke Ihnen. [有難う]
- Er hat mir aus der Not geholfen. [彼は困窮から私を助けてくれた]
- Ich bin heute ihm begegnet. [私は今日彼に會つた]

d) 前置詞を支配する自動詞：

例. warten auf (四格) […を待つ]  
verzichten auf (四格) […を斷念する]  
glauben an (四格) […を信ずる]  
denken an (四格) […を考へる]  
leiden an (三格) […に苦しむ]  
zittern vor (三格) […に慄へる]

例解.

- Wir warten auf Sie. [僕達は君を待つてゐる]
- Denken Sie an das, was ich Ihnen gesagt habe. [僕の云つた事を考へて下さい]
- Ich zitterte vor Kälte. [私は寒さに慄へた]

## 2. 他動詞の格支配

a. 一個の四格を支配する他動詞：

Er schreibt einen Brief. [彼は手紙を書く]

b. 二個の四格を支配する他動詞：

Ich nenne ihn meinen Freund. [私は彼を私の友人と呼ぶ]

c. 四格と同時に三格を支配する他動詞：

Ich gebe Ihnen dieses Buch. [私は貴方にこの本を與へる]

## d. 四格と同時に二格を支配する他動詞:

Der Fürst hat ihn des Amtes entsetzt. [君主は彼の職を免じた]

## e. 四格と同時に前置詞を有する補足語を支配する他動詞:

Er bat mich um Erlaubnis. [彼は私の許可を乞ふた]

## 3. 再歸動詞の格支配

## a. 四格の再歸代名詞を支配する再歸動詞:

sich anhalten [滞在する] sich sehnen [慕ふ]  
 sich beeilen [急ぐ] sich weigern [拒む]  
 sich bekümmern [氣にかかる] sich fürchten [恐れる]  
 sich entschließen [決心する] sich schämen [羞じる]  
 sich erinnern [思ひ起す] sich verlassen [頼る]  
 sich irren [誤る] sich zutragen [起る]

## b. 三格の再歸代名詞を支配する再歸動詞:

sich anmaßen [專横である] sich einbilden [自惚れる]  
 sich vorstellen [考へる] sich vornehmen [決心する]  
 —此種の再歸代詞の数は極めて僅少であります。

二格の再歸代名詞を支配する再歸動詞は其の數更に少い上殆んど實用的價值ありませんから、こゝに申上げる必要はなからうと思ひます。

實例に就いては再歸代名詞の項を参照願ひます。

## 自動詞、他動詞、再歸動詞の併用:

同一の動詞にして自動、他動、再歸の各動詞を兼ねるもの又はその中の二つを兼ねるものがあります。辭書には次のように分類され、動詞の運用上重要な役別を演じてゐます。

例. **brechen** I (他動詞) 破る、裂く……II (再歸動詞) sich brechen ぶつかつて破る……III (自動詞) 破れる、裂け

る……。

**rollen** I (他動詞) 轉がす……II (自動詞) 轉がる……III (再歸動詞) 轉がり廻る……。

**schmerzen** I (自動詞) 熔ける……II (他動詞) 熔かす III (再歸動詞)——。

## 非人稱動詞 (unpersönliches Verbum)

非人稱動詞とは人稱動詞 (ich komme, gehe) に對する名稱でありまして、不定代名詞 es を主語に持つものであります。即ち英語の impersonal verb に該當し、天候、自然現象、個人の感覺、感情等を現すに用ひます。

## 例解.

- Es regnet. [雨が降る]
- Es donnert. [雷が鳴る]
- Es gefällt mir. [私の氣に入る]
- Es wundert mich. [私は驚く]

## 組立動詞 (zusammengesetztes Verbum)

動詞が他の品詞 (名詞、代名詞、副詞、前置詞) 及び前綴と連結して一語を構成する場合、之を組立動詞と云ひます。組立動詞は實に獨逸語の特徴であります。

- a. 名詞と組立てたもの: **danksagen** (感謝する), **teilnehmen** (参加する)。
- b. 形容詞と組立てたもの: **freisprechen** (放免する), **hochachten** (尊敬する)。
- c. 副詞と組立てたもの: **zurückkommen** (歸る), **wegfliegen** (飛び去る)。

- d. 前置詞と組立てたもの: ausgehen (外出する), ankommen (到着する)。  
 e. 前綴と組立てたもの: besprechen (相談する), empfangen (受取る)。

## 組立動詞の種類:

1. 分離動詞 (trennbares Verbum)
2. 非分離動詞 (untrennbares Verbum)
3. 分離兼非分離動詞 (trennbares=und untrennbares Verbum)

## 1. 分離動詞

- a. 前置詞又は副詞と組立てられたものは殆んど凡て分離動詞であります。  
 aufstehen, (立ち上る), beiseiten (取除く), hinstellen (据える), mitteilen (報告する); weglassen, (見捨てる), zurückkehren (歸る), zusammenziehen (引緊める)。  
 b. 名詞又は形容詞と組立てた動詞の大部分も亦分離動詞であります。  
 achtgeben (注意する), preisgeben (放棄する), stattfinden (行はる); totschiagen (打ち殺す), hochachten (尊敬する), wahrnehmen (認める)。

註、1. 分離動詞は現在、過去、命令法に於て分離します。

例、

現在	過去	命令法
anfangen (始る)	— ich fange an, ich fing an, fange an!	
ausgehen (外出する)	— ich gehe aus, ich ging aus, gehe aus!	
zurückkommen (歸る)	— ich komme zurück, ich kam zurück, komme zurück!	

2. 過去分詞及び zu を有する不定法にては接頭語と動詞との間へ

ge 及び zu を挿入します。

例.	過去分詞	不定法
anfangen	angefangen	anzufangen
ausgehen	ausgegangen	auszugehen
zurückkommen	zurückgekommen	zurückzukommen

3. 副文章にては分離しません。

Ich glaube daß er bald anfängt (ausgeht, zurückkommt).

[私は彼が直ぐ始める (外出する, 歸つてくる) と信ずる]

4. 分離し得る組立語の接頭語には常にアクセントがあります。

## 2. 非分離動詞

前綴にアクセントのない be, emp, er, ge, miß, ver, zer 及び前置詞 wider と連結せる動詞は凡て非分離であります。

例. Ich erzähle euch ein Märchen. [私は皆さんにお話を話します]

Er widerstand mir, solange er lebte. [彼は生きてゐる限り私に反抗した]

## 3. 分離兼非分離動詞

前置詞 durch, hinter, über, um, unter 及び副詞 voll, wieder が原意を保存して組立動詞となつた場合は常にアクセントを有し分離します。

之に反して比喩的意味に變つた場合はアクセントを失ひ、分離しません。

例、

分離	非分離
du'rchgehen (通過する)	durchge'hen (審査する)
ü'bersetzen (渡る)	überse'tzen (翻譯する)
u'nterhalten (支へる)	unterha'lten (談話する)

{Der Fluß ist übertreten. (河が氾濫した)  
 {Sie haben das Gesetz übertreten. (君は法を犯した)

## 第二十講

## VIII. 副詞 (Adverbium 又は Umstandswort)

今日より中上げる品詞は盡く不變化詞であります故、容易に修得し得ることと思ひます。

## 副詞の種類

- A. 時の副詞 (Adverbien der Zeit)
- B. 處の副詞 (Adverbien des Ortes)
- C. 方法の副詞 (Adverbien der Art und Weise)
- D. 原因の副詞 (Adverbien des Grundes)

## A. 時の副詞:

Wann? (when?)	heute (to-day)
eben (just)	morgen (to-morrow)
jetzt (now)	gestern (yesterday)
meistens (mostly)	monatlich (monthly)
einst (once)	jährlich (yearly)
neulich (the other day)	plötzlich (suddenly)
manchmal (sometimes)	allmählich (gradually)
häufig (frequently)	schon (already)
selten (seldom)	noch (still, yet)
seitdem (since, then)	bald (soon)
gleich (directly)	anfangs (at first)

Im Jahre (in the year), am Ende (at the end)  
am Morgen (in the morning), eines Tages (one day)

vormittags (in the forenoon), zur Zeit (at the time)  
um 1 Uhr (at one o'clock), im Anfang (in the beginning)  
zum ersten Mal(e) (for the first time), alle Tage  
(every day)

## B. 處の副詞:

wo? (where?)	vorn (before)
wohin? (whither?)	hinten (behind)
woher? (whence?)	aufwärts (upward)
hier (here)	rechts (right)
da (there)	links (left)
außen (outside)	diesseits (on this side)
innen (within)	gegenüber (opposite)
oben (upstairs)	nirgends (nowhere)
überall (everywhere)	zusammen (together)
unten (downstairs)	auseinander (asunder, apart)
ringsum (all around)	fern, weit (far)

## C. 方法の副詞

## 1. 肯定、否定、疑惑の副詞:

ja (yes)	gewiß (surely)
allerdings (by all means)	vielleicht (perhaps)
natürlich (of course)	zufällig (by chance)
wirklich (really)	vergebens (in vain)
gern (willingly)	durchaus (absolutely)
leider (unfortunately)	niemals (never)
nein (no, not)	schwerlich (hardly)
wahrscheinlich (probably)	nimmer (never, never more)

## 2. 狭義に於ける方法の副詞:

gut (good)	richtig (right)
schlecht (bad)	falsch (false)
so (so, as)	teilweise (partially)
anders (otherwise)	umsonst (for nothing)
freundlich (friendly)	blindlings (blindly)
ebenso (just so)	rücklings (backwards)

## 3. 量、程度、強度等を示す副詞:

etwas (some what)	ganz (quite)
ziemlich (pretty)	kaum (scarcely)
beinahe (nearly)	sehr (very)
um so (so much)	zu (too)
fast (almost)	mehr (more)
viel (many, much)	genug (enough)
wenig (little, some)	nur (only)

## D. 原因の副詞:

daher, deshalb, darum, deswegen (therefore)
dadurch, davon, daraus (thence, therefrom)
dazu (therezu)
trotzdem, dessenungeachtet (in spite of)
meinet-deinet-seinetwegen (for my—your,—his—sake)

副詞の比較變化

副詞も不變化詞なる以上、變化しないのが當然であります。同一の品詞にして、用法上形容詞と副詞との兩者を兼ねるものがあります。即ち形容詞が副詞的に用ひられた場合、形容詞の比較變化が行はれます。このことは既に形容詞の比較に於て申上げた所であります。

例. 原級	比較級	最上級
schön	schöner	am schönsten
kurz (short)	kürzer	am kürzesten

本來の副詞にしてこの變化をなすものは次の四語に過ぎません。

原級	比較級	最上級
gern (willingly)	lieber	am liebsten
wohl (well)	{ besser wohler	am besten
bald (soon)	eher	am ehesten
oft (often)	öfter	am öftesten

## 絶対的最上級:

最上級は上の規則によらずして、作り得る場合があります。併しその意味は常に必ずしも最上を現はす比較的のものではなく、寧ろそれ自身獨立せる一つの言葉と見るべきであります。

1. aufs, zum, im 等の前置詞と結合せるもの:  
aufs stärkste (非常に強く), zum sichersten (一番確實に), nicht im geringsten (ちつとも無い)。
2. st の語尾を附するもの:  
freundlichst, (親切に), möglichst (出來得る限り), herzlichst (心から), gefälligst (何卒)。
3. stens の語尾を附するもの:  
höchstens (高々), wenigstens (少くとも), frühestens (一番早く, 早くとも)。

副詞の例題

1. Diese Blume riecht gut.

2. Wo gehen Sie jetzt hin?
3. Wie weit sollen wir lernen?
4. Je mehr Verdienst man hat, desto bescheidener ist man.
5. Zuerst brannte das Haus ab und dann die Kirche.
6. Ihre Schwester steht immer früh auf, warum kann sie es nicht auch?
7. Wollen Sie mir nicht erlauben, ein wenig länger zu bleiben?
8. Ich habe so viel zu tun, ich werde morgen kaum fertig werden.
9. Er lernt zu viel auf einmal.
10. Ich kann weder lesen noch schreiben.
11. Er tut nichts anders als spielen.
12. Ich kann Ihnen gar nicht sagen, wie sehr es mich freut, Sie wiederzusehen.
13. Ich habe ihn seit mehreren Jahren nicht gesehen.
14. Wir haben keineswegs eingewilligt.
15. Sie schläft wenigstens sechs Stunden.

## 解答

1. This flower has a nice perfume.
2. Where are you going now?
3. Up to where must we learn?
4. The more merit one has, the more modest one is.
5. First the house is burnt and then the church.
6. Her sister always rises early, why can't she do the same?
7. Won't you allow me to remain a little longer?

8. I've so much to do, I shall hardly have finished by to-morrow.
9. He learns too much at a time.
10. He can neither read nor write.
11. He does nothing but play.
12. I can't tell you how pleased I am to see you again.
13. I have'nt seen him for several years.
14. We've by no means consented to it.
15. She sleeps at least six hours.

## 第二十一講

## IX. 前置詞 (Präposition 又は Verhältniswort)

## 前置詞の格支配

前置詞の後に來る名詞は、前置詞の種類により常に一定の格をとります。前置詞に於て論ずべき點は只この格支配丈であります。

## A. 二格支配の前置詞：

- halber, halben, wegen, um willen (on account of)
- trotz, ungeachtet (in spite of, notwithstanding)
- mittelst, mittels (by means of)
- kraft, vermöge (by virtue of)
- unweit, unfern (not far off)
- statt, anstatt (instead of)
- längs, entlang (along)
- betreffs, bezüglich (relative to, in respect to)
- oberhalb—unterhalb (above—below)
- innerhalb—außerhalb (within—without)

diessseit—jenseit (on this side—on the other side)  
 laut, zufolge (according to)  
 während (during)

- 註 1. halber, halben は常に名詞の後に置かれます。  
 2. wegen, ungeachtet は名詞の前後何れにも用ふる事が出来ます。  
 3. entlang が名詞の後に置くときは、その名詞は第四格をとります。  
 4. zufolge (名詞の後の), trotz, längs は又三格にも用ひられます。

## 例解.

- Ich will meine Ansicht der Klarheit **halber** noch einmal wiederholen. [私の意見を明かにする爲にもう一度繰返してみたいと思ふ]
- **Trotz** Ihrer Worte glaube ich das nicht. [君の言葉に拘らず、僕はそれを信じない]
- Er ist **statt** seines Vaters gekommen. [彼は彼の父に代つてやつてきた]
- **Wegen** der dringenden Geschäfte (=der dringenden geschäfte **wegen**) konnte ich nicht gehen. [急用の爲私は行くことが出来なかつた]
- **Oberhalb** der Brücke ist der Fluß sehr tief. [橋の上流の方は河が非常に深い]
- **Entlang** des Flußes (=den Fluß **entlang**) gehe ich spazieren. [河に沿ふて私は散歩する]
- Man muß das Gute nicht **um** eines Vorteils tun. [自己の利益を圖らずして善行をなさねばならない]

## B. 三格を支配する前置詞の全部:

ab (from—但し死語) dank (owing to)  
 aus (out of, from, of) gemäß (according to)

außer (out of, besides, zuwider (contrary to, against) except)

bei (at, by, near) entgegen (in opposition to, contrary to)

mit (with) binnen (within)

von (from, of) seit (since)

nach (to, for, after, nächst, zunächst (next to) according to)

nebst, samt (together with). 二格支配の前置詞の längs, trotz, zufolge (on account of)

- 註 1. zuwider, entgegen は名詞の後に置かれます。  
 2. gemäß, gegenüber, nach (according to の意味に於ける) は名詞の前後何れにも置く事が出来ます。  
 3. binnen, bis は二格を支配することがあります。

## 例解.

- Er übersetzt **aus** dem Deutschen ins Englische. [彼は獨逸語を英語に翻譯する]
- **Von** welchem Lande kommen Sie? [貴方はどの國から來られましたか]
- **Nach** meiner Meinung (=meiner Meinung **nach**) hat er recht. [僕の考へでは彼は正しい]
- Er kommt **mit** offenem Armen mir **entgegen**. [彼は兩腕を擴げて私の方へやつてきた]
- **Seit** einem Jahre habe ich ihn nicht gesehen. [一年の方私は彼を見たことはない]
- **Binnen** einigen Wochen werde ich Deutschland verlassen. [數週間の中に私は獨逸を去ります]



## C. 四格を支配する前置詞の全部:

bis (till, to)	sonder (without—古語)
durch (through)	gegen (towards, against)
für (for, instead of)	wider (against)
um (about, around)	二格支配の entlang
ohne (without)	

註 bis はその他の前置詞を随伴するときは名詞、代名詞の格に関係なく、格の決定はその直前の前置詞に依ります。

例. bis an die Ohren (耳まで)

bis auf diesen Tag (この日まで)

## 例解.

- Der Kugel geht **durch** die Scheibe. [弾丸は窓ガラスを射通す]
- Ohne Sie wäre ich zugrunde gerichtet worden. [貴君がなかつたら僕は零落して了つたであらう]
- Er handelte gegen meine Befehle. [彼は私の命令に反対の行動をとつた]

## D. 三格又は四格を支配する前置詞の全部:

an (at, by, to)	unter (under, among)
auf (on, in, at, of)	hinter (behind)
über (over, above, across)	neben (by the side of, near)
	zwischen (between)
in (in, into)	
vor (before)	

第三格を支配する場合、即ち wo に答ふる場合は静止の状態を現はす時に用ひます。

第四格を支配する場合、即ち wohin に答ふる場合は運動を示

す時であります。

例解. 第三格(静止) 第四格(運動)

- Ich sitze an dem Fenster. Ich gehe an das Fenster.  
[私は窓の側に坐つてゐる] [私は窓の所へ行く]
- Das Buch liegt auf dem Tische. Ich lege das Buch auf den Tisch.  
[本は机の上にある] [私は本を机の上へ置く]
- Er ist in der Schule. Er geht in die Schule.  
[彼は學校にゐる] [彼は學校へ行く]

## ◎前置詞の記憶法

前置詞の中格支配の数の少い第三格、第四格及び第三格と同時に第四格を支配するもの丈を記憶して置けば、残つたものは第二格支配の前置詞となります。第二格支配の前置詞は約百箇の多數に上り、之を一つ一つ記憶することなど到底初學者に出来るものではありません。

## 前置詞の例題

1. Haben Sie sie seit ihrer Ankunft gesehen?
2. Trotz aller seiner Bemühungen glaube ich für mein Teil nicht, daß es ihm gelingen wird.
3. Meine Schwester macht Einkäufe in der Stadt.
4. Er wird ohne Zweifel nach dem Landesgesetz bestraft werden.
5. Er stand vor uns vom Anfang bis zu Ende.
6. Ich habe Ihr Federmesser unter dem Tische gefunden.
7. Sie ist mildtätig gegen die Armen.
8. Er ging mit festem Schritt dem Offizier entgegen.
9. Man sagt, das Heer solle um die Hälfte verkleinert

werden.

10. Sie erwartet ihren Bruder von Tag zu Tag.
11. Dieser Mensch wird wegen seiner Treulosigkeit verabscheut.
12. Betreffs Ihrer Wünsche kann ich nicht tun.
13. Seiner Kleidung nach scheint er Soldat gewesen zu sein.
14. Er zog sich mitten in der Nacht in guter Ordnung zurück.
15. Ich fürchte, daß er über seine Kräfte arbeitet.
16. Der Spion ging geschickt durch das feindliche Lager.
17. Er wollte bis nach Basel gehen, mußte es aber aus Mangel an Geld aufgeben.
18. Sie wurden in der Schlacht bei Sedan verwundet.
19. Es ist um ihn geschen.
20. Sie ist sehr stolz auf ihren Rang.

#### 解答

1. Have you seen them since their arrival?
2. For my part, I don't think he'll succeed, in spite of all his efforts.
3. My sister is in town making purchases.
4. He'll doubtless be punished according to the law of the Land.
5. He stood before us from the beginning to the end.
6. I found your penknife under the table.
7. He's very charitable towards (to) the poor.
8. He went towards the officer with a firm step.
9. They say that the army is going to be diminished by one

half.

10. She's expecting her brother from day to day.
11. This man is detested on account of his perfidy.
12. I can do nothing to meet your wishes.
13. From his dress he seems to have been a soldier.
14. He retreated in good order in the middle of the night.
15. I fear he is working beyond his strength.
16. The spy passed cleverly through the hostile camp.
17. He wanted to go as far as Bâle, but he was obliged to give it up for want of money.
18. They were wounded in the battle of Sedan.
19. It's all over with him.
20. She's very proud of her rank.

## 第二十二講

### X. 接續詞 (Konjunktion 又は Bindewort)

接續詞は文章の配語上、特に注意を要する品詞であります。

#### 接續詞の種類

#### A. 對立接續詞 (beordnende Bindewörter)

1. 配語上影響せざる接續詞。
2. 配語上影響を及ぼす接續詞。

#### B. 從屬接續詞 (unterordnende Bindewörter)

— 從屬接續詞は常に副文章の頭初に置かれ、定動詞は最後に來ることになつてゐます。— 文章論参照

#### A. 對立接續詞:

## 1. 配語上影響せざる對立接續詞 (七語):

und (und)	sondern (but)
oder (or)	sowohl—als (both—and)
denn (for)	
aber 又は allein (but, however)	

## 例解.

- Ich muß zu Hause bleiben; denn ich bin krank.  
〔私は在宅せねばならない。病氣だから〕
  - Er ist sowohl ein Dichter als (auch) ein Kritiker.  
〔彼は詩人であり且つ批評家である〕
  - Nicht ich bin krank, sondern mein Vater.  
〔私は病氣であるのではなく父が病氣なのです〕
  - ◎ 此等の接續詞の中、只 aber 丈その位置不定であります。
    - Der Strauß hat Flügel, aber er kann nicht fliegen.  
〔駝鳥は翼を持つてゐるが飛ぶことが出来ない〕
- = Der Strauß hat Flügel, er kann aber nicht fliegen.

## 2. 配語上影響を及す對立接續詞:

also, so (thus, so)	denn noch (and yet)
auch (too)	
außerdem (besides)	doch (yet)
bald—bald (now—now)	entweder—oder (either—or)
dagegen (on the con- trary)	ferner (further)
daher, deswegen, da- rum (therefore)	weder—noch (neither—nor)
demnach (accordingly)	nicht nur—sondern auch (not only—but also)

sonst (otherwise)      zwar (indeed, it is true)

## 例解.

- Meine Schwester ist krank, also (deshalb, deswegen, daher, mithin, folglich) kann sie nicht abreisen. 〔私の姉妹は病氣である故、旅立つことは出来ません〕
- Kaum hatte er dieses Wort gesprochen, so ging er fort. 〔彼はこの言葉を吐くや否や去つて了つた〕
- Doch (jedoch, indessen) war es schon spät geworden. 〔とはいへ、時間は既に遅くなつてゐた〕
- Entweder kommt er, oder wird er bald schreiben. 〔彼は訪ねてくるかそれとも手紙を直ぐに書くかどちらかだ〕
- Zwar konnten wir nicht sehen, wer es war, aber wir erkannten sogleich seine Stimme. 〔それは誰れであつたか見ることは出来なかつたが、吾々は彼の聲で直ぐに分つた〕

## B. 從屬接續詞:

als (when—過去, as, than)	obwohl, wiewohl (though)
bevor, ehe (before)	seit, seitdem (since)
bis (until)	so oft (as often as)
damit (in order that)	sobald (as soon as)
daß (that)	solange (as long as)
falls (in case that)	während (while)
indem (while, as)	weil (because)
je (the+比較級)	wenn (if, when—現在、未來)
nachdem (after)	wie (as, how)
ob (if, whether)	wofern (as much as)

obgleich, obschon (though)

例解.

- Als er alles gehört hatte, eilte er fort.  
〔彼は凡てを聞き終つた時に急いで去つた〕
- Wenn es regnet, (so) geht man nicht spazieren.  
〔雨が降つてをれば散歩に行かない〕
- Warten Sie, bis ich meinen Brief vollendet habe!  
〔手紙を書き終るまで待つてゐて下さい〕
- Indem er mir die Hand drückt, sagte er zu mir.  
〔彼は私の手を握り乍ら私に云つた〕
- Sprechen Sie laut, damit ich Sie verstehen kann!  
〔私がよく解るように大きな聲で話して下さい〕
- Obschon er noch jung ist, hat er doch schon graue Haare.  
〔彼は未だ若いとはいへ胡麻鹽頭だ〕
- Je früher du kommst, desto angenehmer ist es mir.  
〔早く君が来ればくるほど、僕は氣持がよい〕

**接續詞の例題**

1. Machen Sie uns Feuer, denn es ist sehr kalt.
2. Es freut mich sehr, daß Ihre Schwester wiedergestellt ist.
3. Ich habe es getan, weil Sie es mir befohlen haben.
4. Da Sie es wünschen, will ich es tun.
5. Er ist zuweilen bei sehr schlechter Laune, doch schätze ich ihn sehr.
6. Stören Sie mich nicht, während ich schreibe!

7. Sie sind glücklich sein, solange sie ihre Pflicht tut.
8. Ich habe ihn nicht gesehen, seitdem sein Sohn gestorben ist.
9. Sie nahm ihm beim Arm, ohne daß er darauf achtete.
10. Indessen glaube ich nicht der erste zu sein, der es bemerkt hat.
11. Ehe er abreise, besuchte er Herrn N.
12. Sobald der Glocke läutete, wachtet ihr auf.
13. Wiewohl sie klein ist und schlecht aussieht, so ist sie nichtsdestoweniger ziemlich stark.
14. Ich habe dieses Kind nicht gern; darum werde ich ihm nicht erlauben, mit meinem Sohn zu spielen.
15. Er ist weder in Straßburg noch in Metz.

解答

1. Make us a fire, for it's very cold.
2. I'm very glad indeed that your sister has recovered.
3. I did it, because you commanded me.
4. Since you wish it, I'll do it.
5. He's sometimes in a dreadful temper, but still I esteem him very much.
6. Don't disturb me, while I'm writing.
7. She'll be happy, as long as she does her duty.
8. I haven't seen him since his son died.
9. She took him by the arm without his paying any attention.
10. Yet I don't think I'm the first who has observed it.
11. Before starting, he went to see Mr. N.
12. As soon as the bell rang, you awoke.
13. Though she's small and looks delicate, she's nevertheless pret-

ty strong.

14. I don't like that child; therefore I shall not allow him to play with my son.

15. He's neither at Straßburg nor at Metz.

### XI. 感嘆詞 (Interjektion 又は Empfindungswort)

#### 感嘆詞の種類

- A. 本来の感嘆詞 (eigentliche Ausrufungswörter)  
 B. 非本来の感嘆詞 (uneigentliche Ausrufungswörter)

#### A. 本来の感嘆詞。

1. 喜悅 : ha!, heisa!, juche!, ei! hurrah! ach!.
2. 苦痛 : weh!, o weh! au! leder! ach!.
3. 恐怖 : hu!, uh!.
4. 嫌惡 : pfui!, fi!, ah!.
5. 驚異 : o!, ha!, ih, ach!.

#### B. 非本来の感嘆詞。

1. 音響模倣の言葉 : bim!, bam!, bum!, husch!, klipp!, klapp!, krach!, ticktack!, plumps!, pardauz!, brr!.
2. 判断, 意志, 欲求等を現はすに文章を省略して簡単に述べる言葉.  
 ja! (然り), nein! (no), fürwahr!, wahrlich!, wahrhaftig! (實際, いかにも) — 判断。  
 ha! hedda!, pst!, frisch!, holla!, horch!, sieh!, marsch! fort!, wohlan! — 意志欲求。

## 第二十三講

### XII. 文章論 (Syntax 又は Satzlehre)

獨逸文法に於ける文章論の實用的立場より云へば、文章の構成即ち文の配語法が、最も肝要な役割を演じてゐるといふことは云ふまでもありません。それ故この講義に於ては配語法に重點を置き、他はそれを説明する爲の補助的項目と見て頂きたい。

文の構成に關する一般的規則を申し上げるに先ち、その規則の中に現はるる用語の意味を明にしておく必要があります。

#### 文章の成分 (Bestandteile des Satzes)

A. 主語 (das Subjekt) — 略語 S. —: 文の主體となるものであります。

B. 定動詞 (Verbum finitum) — 略語 V. f. —: 主語の人稱及び數に一致せる動詞を云ひます。一つの文章に於ける動詞は一個乃至數個の部分より成立してゐますが、その中主語の人稱及び數に一致する動詞は只一つ丈であります。

例へば ich *sehe*, ich *sah*, ich *habe* gesehen, ich *werde* gesehen haben. 等の文章に於て *sehe*, *sah*, *habe*, *werde* なる定動詞以外の動詞 (*gesehen*, *haben*) は主語の何れの人稱及び數にも共通の形であります。

定動詞は次に述べる客(述)語の一つと見る學者が澤山ありますが、配語法の説明に當つては、之を獨立せる文章の一成分と見做さなければ、説明するにも理解するにも非常に困難を覚えなければなりません。

定動詞は主語の人稱及び數に一致する動詞であります故

獨立動詞の他に凡ての助動詞が之に屬してゐます。

C. 補足語 (Objekt) —略語 O. —:

補足語とは動詞の意味を補足するに不可缺のものでありまして、若しこの補足語を取り去れば動詞の意味は全く徹底しなくなるものであります。邦語に於ける「を」「に」に大體該當してゐますが、例外も亦尠くはありません。

補足語は名詞、代名詞又は名詞的に用ひられた言葉によつて表はされてゐます。

D. 副詞的規定語 (Adverbial) —略語 Ad. —:

副詞的規定語は一般に狀況語と譯されゐますが、譯語の意味が余りに狭義に失する嫌ひがあると思ひます。

副詞的規定語も亦動詞に附するものでありますが、補足語の如く不可缺のものではありません。即ち動詞の示す動作又は状態の時、處、方法、原因等を示すものであります。換言すれば wann?, wo?, wie?, warum? 等の間に答へ、動詞の意味を規定します。

副詞的規定語は副詞及び副詞句より成つてゐます。副詞句の意味は英語と同様であります、只その構成が英語と余程異つてゐるものがあります。

即ち或る副詞句は二格の名詞 (eines Tages 或日), 四格の名詞 (jeden Tag 毎日) 前置詞附名詞 (am Morgen) より成立してゐるが如きです。

E. 客語 (Prädikat) —略語 P. —:

客語とは主語に關して言ひ表はされたところのものであります。定動詞は此際客語より排除して考へる方が、文章の構成を知るに便利であります。動詞の中 sein, werden (to become), scheinen (to seem), bleiben (to remain),

heißen (to name) 等が主語と連結するとき、此等の動詞を一般に連辭 (Kopula) と云つてゐます。

客語となる主なる品詞は一格又は四格の名詞、客語的形容詞、形容詞的品詞、不定法、過去分詞及び分離動詞の前綴等であります。換言すれば前記何れの文章の成分にも屬しないものは、凡て客語であると見做しても差支へありません。

F. 附加語 (Attribut)

附加語とは名詞の意味を規定するものでありますが、文の構成を知る場合に、文章の要素としては殆んど重きをなしてゐません。

附加語となるものは附加語的形容詞又は分詞、數詞、名詞を規定せる同格の名詞、二格の名詞等であります、その他の品詞も附加語的のものは、その意味によつて直ちに判定することが出来ます。

配語法

以上の中附加語を除く他の五個のものは文章の五大成分でありまして配語法は次の如き公式によつて行はれます。

第一式: S. + V.f. + Ad. + O. + P. ……普通文

例、Ich habe heute meinen Freund gesehen.

- 註 1. Ad. が長くして O. が短い場合、語調をよくする爲順位を顛倒する事が屢あります。  
2. 補足語二個ある時は通例「人」を先にし「物」を後に置きます。

第二式: E. + V.f. + S. + Ad. + O. + P. ……強調文

第二式は五成分の中、何れか一つを強調せんが爲、文頭に於て言ひ表はす場合に用ひます。E. は Emphasis の略語で

あります。

- 例 • **Meinen Freund** habe ich heute gesehen.  
 • **Heute** habe ich meinen Freund gesehen.  
 • **Gesehen** habe ich heute meinen Freund.

第三式：V.f. + S. + Ad. + O. + P. ? ……疑問文 1

疑問又は感嘆の文に於ては第三式を用ひます。若し疑問又は感嘆の意味を表はす wie, wo, wann, wer の如き疑問詞 (Fragewort. 略語 F.) がある場合には、之を更に文頭に置きます。

F. + V.f. + S + Ad. + O. + P. ? ……疑問文 11

此等の五成分の中、S. Ad. O. P. が單語又は單句ではなく、文章の形體をとる場合、之を副文章 (Nebensatz) といひます。副文章はその文頭に接續詞 (Bindewort 略して B.) をとる場合が多く、配語法も普通の場合と異り、K. を文尾に置きます。

第四式：B. + S + Ad. + P. + V.f. ……副文章

- 例、Er weiß, daß ich heute meinen Freund gesehen habe.  
 =Er weiß, ich habe heute meinen Freund gesehen.

#### 配語法の文例

1. Das Deutsche Reich ist eine Republik.
2. Das Volk wählt den Reichspräsidenten und den Reichstag.
3. Die Reichsverfassung gibt den Bürgern große Rechte und Freiheiten.
4. In der Religion gibt es eine Glaubensfreiheit.
5. Im Kriege hat Krupp die großen, schweren Kanonen

gebaut.

6. Die Fabrik leitete er doch nach dem Tode seines Vaters mit der Mutter zusammen.
7. Auch Häuser für seine Arbeiter wurden von ihm gebaut.
8. Nur auf dem Lande, in kleinen Dörfern, werden die Knaben und Mädchen gemeinsam unterrichtet.
9. Nach der achtjährigen Volksschule kann der Knabe oder das Mädchen 4 Jahre zur Fortbildungsschule gehen.
10. Dieser Unterricht ist meistens in den Abendstunden, da am Tage die Schüler und Schulerinnen einen Beruf hat.
11. Der Mensch hat Bedürfnisse der verschiedensten Art, die er befrieden muß, um zu leben, um zu gedeihen.
12. Die Tätigkeit, welche auf Bedürfnisbefriedigung gerichtet, nennen wir wirtschaftlich.
13. Sie wird geleitet von dem Grundgedanken, den höchsten Erfolg mit den geringsten Mitteln zu erzielen.
14. Die Fragen der geistigen Kultur sind so verschiedenartig und greifen so weit in andere Wissensgebiete über, daß durch ihre Zusammenfassung mit den äusseren Lebensbedürfnissen eine einheitliche und übersichtliche Darstellung unmöglich gemacht wird.

## 第二十四講

## XIII. 聲音論 (Lautlehre)

聲音の種類	母音 (Vokale)	單母音 (einfache Vokale)
		變母音 (Umlaut)
		複母音 (Diphthong)
	子音 (Konsonanten)	單子音 (einfache Kons.)
		重子音 (Doppelkons.)
		組立子音 (zusammengesetzte Kon.)

## 發音 (Aussprache)

## I. 母音

- A. 單母音: a, e, i, o, u (何れも長短二種に發音されます)  
aa, ah; ee, eh; ie, eh; oo, oh; uh (何れも長音)
- B. 變母音: (1) ä, (2) ö, (3) ü (長短二種に發音します)
- (1) ä の長音は英語の late の a, say の ay の如く發音します——  
Ähre, häkeln.  
ä の短音は英語の bend の e と同様の音を持つてゐます——  
Bänder, Fälle.
- (2) ö は英語の her の er と類似の音を持つてゐます——

Öhl; können.

(3) ü の長音は英語の seed に似た音を發します。  
即ち ee を口笛を吹く哈好して發音します。

Tür, ausführen

ü の短音は英語の ill の i の音に似てゐます。  
füllen (fillen と殆んど同音に聞えます)

C. 複母音: ai, au, äu, ay, ei, eu, ey.

ai, ay, ei, ey は英語の shy の y の音に當ります——  
Mai, Bayern, Neid, Meyer.

au は英語の how の ow と同音です——  
Haut, aus.

äu と eu は英語の boy の oy の音に相當します——  
Bäume, neu.

## II. 子音

- A. 單子音: b, c, d, f, g, h, j, k, l, m, n, p, q, r, s, t, v, w, x, z.
- B. 重子音: bb, dd, ff, gg, kk, ck, ll, mm, nn, pp, rr, ss, tt,
- C. 組立子音: ch, ph, th, tz, sch, ß, sp, st, pf, gn, ng, nk, qu, chs,
- b=b (語の始め)——Bild, Boden.  
=p (語の終り、次に子音の來る綴音の終り、s 及 t の前)  
——Grab, Dieb; Grobheit, grüblich; Obst, Apt.
- c=k又はz (ts) (少數のラテン語又はフランス語以外 c は常に k 又は z に書き改められます)  
——Coupé=Koupé, Cousine=Kousine  
Cigarre=Zigarre, Centrum=Zentrum.



ch=喉音 (a, o, u, au の前) — Dach, Loch, Bruch,  
auch. 英語の loch の ch の音に似てゐます。

=舌音 (凡ての子音及び e, eu, i, ä, äu, ö, ü の後)  
— Milch, Hecht, euch, Stich, Nächte, räuchern.

英語の hue に近い音を持つてゐます。

=k (語の初め) — Charakter, Chor,

=sch 又は hi — Chef, Chaussee; China, Chemie.

chs=ks (s が語幹の終にある場合) — sechs, Lachs.

ck=kk — Decke, Brücke.

d=d — der, Dom.

=t (綴音又は語の終り) — Hand, endlich.

dt=t — Stadt, verwandt.

f=f — Ofen, fort.

g=g — Griff, geben.

=k (北獨逸に行はる) — genug, Sieg.

=ch (南獨逸に行はる) — genug, Sieg.

註 g が二個の母音の間に介在する場合に於ても南北獨逸に於て又同様の差異が生じます — Auge, Bogen,

gd } = kt (北獨逸), cht (南獨逸) — Magt, biegt.  
gt }

gn=gn — Gnad, Gnom.

h=h — Herz, haben.

=黙音 (兩母音の間) — stehen, Reihe.

=長音 — Lohn, ihr.

j=y — Jahr, jeder.

k=k — Kind, klein.

kn=kn — Knabe, Knospe.

l=l — Leib, lieben.

m=m — Mutter, kommen.

n=n — Name, Mond.

ng=ng — bringen, lang.

nk=nk — denken, flink.

p=p — Papier, Lampe.

pf=p+f — Pfeffer, Napf.

ph=f — Philosoph, Phantasie.

qu=qw — Quantität, bequem.

r=rr — Harm, hart.

s= 濁音 (語又は綴音の始め及び母音の間に介在する場合)

— Rose, sehen, lesen.

= 清音 (語又は綴音の終り) — Haus, erster.

sch=sh — Schiff, schnell.

sp=schp (語又は綴音の初め) — Speise, versprechen.

=sp — Knospe, lispeln.

st=scht (語又は綴音の初め) — Stein, verstehen.

=st — West, erst.

ß=s (清長音) — Kuß, heiß

t=t — Tante, tot.

th=t — Theater, Theorie.

ti=tsee (ti の後に母音を有する外來語)

— Aktion, Patient.

tz=zz — Netz, Blitz.

v=f — Vater, brav.

=w — Vokal, Villa.

w=w — Wein, wahr.  
 x=ks — Axt, Examen.  
 y=y (稀に用ひられます) — Jacht, Jankee.  
 z=tz — zwei, ziehen.

### 外來語の發音

外來語の主なるものはラテン語、フランス語、イタリー語、スペイン語及びギリシヤ語であります。そして此等の外來語の發音は次の三種の取扱ひをうけてゐます。

- a. 何等の變化をうけずして使用するもの：thé dansant.
- b. 獨逸語の發音法則に近似させるもの：Büro.
- c. 全然獨逸語化されたもの：Münze.

一般獨逸語の發音法則に従はない外來語の發音は大抵の辭書に掲げられてありますから、こゝでは只主要の法則に就いて説明することに止めます。

oi = aa — Toilette, Memoire.  
 ou = u — Tour, Koupé.  
 cu = ö — Gouverneur, adieu.  
 en = an — Pension, Reundement.  
 cau, au = o — Bureau, Plateau.  
 dg = dz — Budget.

### 綴音 (Silben)

綴音の種類 { 幹綴 (Stammsilbe)  
 前綴 (Vorsilbe)  
 後綴 (Nachsilbe)

例 (語) 前綴 幹綴 後綴  
 Antwort, Ant + wort

antworten, ant + wort + en  
 lieblich, lieb + lich  
 Gesetz Ge + setz

**綴音の分離** 綴音の分離は原則として自然の發音に従つて分離すべきものであります。その主なる法則を挙げれば次のようであります。

1. 前綴を有する語はその前綴を分離します (er-kennen)
2. 母音と母音との間に一個の子音あるとき、その子音は次の綴音に屬します (Ge-le-genheit)
3. 母音と母音との間に二個以上の子音あるとき、最後の子音の前に綴音の分離點があります (Früh-lich-keit)


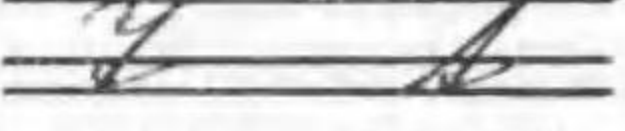
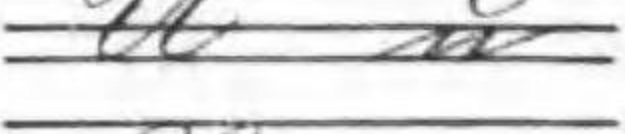
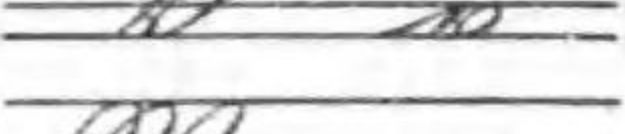
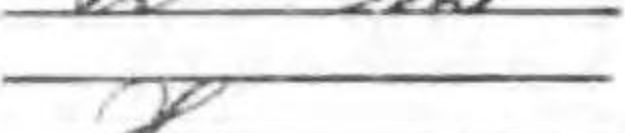
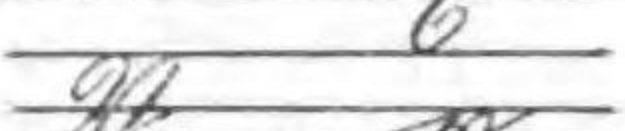
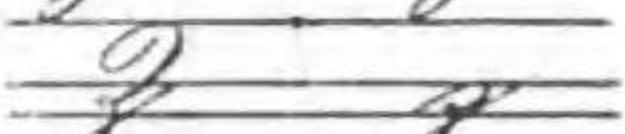
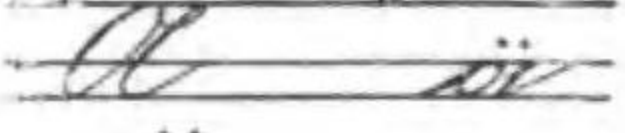
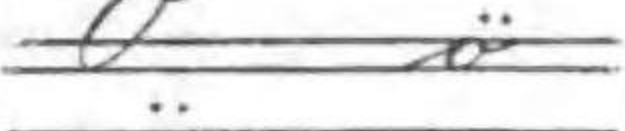
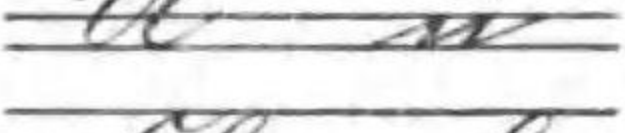
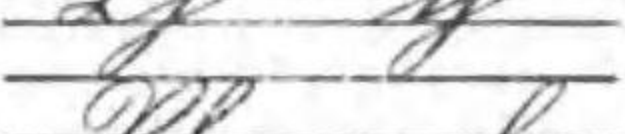

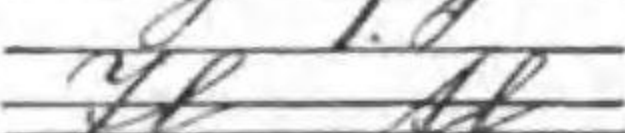

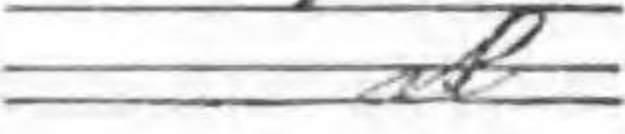


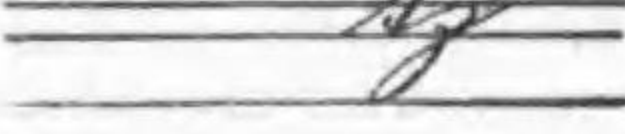

### アクセント

1. 一音綴よりなる語はその幹母音にアクセントがあります。  
 Ha'nd, i'ch, Fu'ß.
2. 後綴にアクセントはありません。  
 Krank'heit, lieb'lich, eng'lich.
3. 前綴にも大體アクセントが無いと見て差支へありません。  
 erwa'chen, verlie'ren, Bewe'gung.
4. 組立語は大抵語幹にアクセントがあります。  
 Kirsch'baum, Schul'lehrer.

### 文字 (Buchstaben)

獨逸の字母は二十六の文字より成り、印刷字體と筆記字體とに分れます。現代は獨逸文字と並んで羅典文字が盛に使用されて居ます。

A	a		ah (in shah)
B	b		be (y)
C	c		tse (y)
D	d		de (y)
E	e		e (y)
F	f		ef
G	g		ge (y)
H	h		hah
I	i		ee
J	j		jot
K	k		kah
L	l		el
M	m		em
N	n		en
O	o		o (in no)
P	p		pe (y)
Q	q		koo
R	r		err

S	f (s)		ess
T	t		te (y)
U	u		oo (in food)
V	v		fou
W	w		ve (y)
X	x		iks
Y	y		ipilon
Z	z		tset
Ä	ä		
Ö	ö		
Ü	ü		
Ch	ch		
Ph	ph		
Sch	sch		
Th	th		
St	st		
	ß		
	ff		
	ff		

昭和8年6月20日印刷 昭和8年7月1日發行



著 者 小 村 實

發 行 者 照 井 健 伍  
東京市神田區南神保町9

印刷者及印刷所 中 村 修 二  
東京市神田區表紙袋町2開明堂

發 行 所  
太 陽 堂 書 店

東京市神田區南神保町九番地  
電話九段一九四四番・振替東京三一七二五番

新獨逸文法<sup>二十四時</sup>整理・定價一圓三十錢

陸軍參謀本部前翻譯官 榎本恒太郎先生  
エム・エス・エー・アシユ 共著  
陸軍大學前教授 黒塚壽一先生

## 獨英和新辭典

(三六判上製五七〇頁, 定價二圓五十錢, 送料十六錢)

獨逸語を學ぶ者の大多數は英語の知識を有する人々である。本書は特に此の點を顧慮して成れるもの即ち、獨逸語に對し和譯と共に英譯を附して獨逸語の意義を一層明瞭にし、讀者の英語の力を應用して獨逸語の學修を容易ならしめたものである、本書の特長を列挙すれば

1. 獨逸語に英和兩譯を附し獨逸語の意義を明瞭にせし事
1. 獨逸語の學修に英語の學力を利用するを得せしめた事
1. 新語と俗語とを多數網羅せる事
1. 重要な固有名詞を採録せる事
1. 譯語は英、和、共に最も簡潔明瞭なる事

等々にして要するに本書一冊にて獨英辭典、獨和辭典、新語俗語辭典、重要固有名詞辭典等を兼ねた獨逸語學修上最も便利な辭書である、敢て獨逸語研究者にすゝむ。

桃井鶴夫先生著 (訂正十版)

## カナ付き 獨和新辭典

(ポケット形五五〇頁, 定價一圓五十錢, 送料十四錢)

此の辭典は、特に初學者の爲め正確な發音と譯とを施したものと且つ最近の有ゆる新語を網羅した最も優秀なものであるから獨り初學者に限らずポケット用小型の辭書を希望せらるゝ諸君におすゝめする。

(出版目錄送呈す)

### ◇ 獨逸語論文研究

榎本先生・黒塚先生共著・46版 280P ¥1,80 円8

### ◇ 獨逸語論文作法研究

榎本先生・黒塚先生共著・46版 280P ¥1,80 円8

### ◇ 自修新ドイツ文典

山田幸三郎先生著・46版 640P ¥3,50 円14

### ◇ 獨逸語急速暗記カード

桃井鶴夫先生考案・カード 544枚 ¥1,20 円14

### ◇ 初年生の獨逸語

藤原誠次郎先生著・46版 350P ¥1,70 円12

### ◇ 獨逸語 a b c の讀み方から

桃井鶴夫先生著・46版 270P ¥1,30 円8

### ◇ カナ付き 獨和新辭典

桃井鶴夫先生著・ポケット形 550P ¥1,50 円6

### ◇ 新獨逸文法廿四時間整理

小村 實先生著・46版 130P ¥1,20 円6

(出版目錄送呈す)

---

---

◇佛語論文研究

榎本恒太郎先生著・46版 280P ¥1,80 ㊦8

~~~~~  
◇佛語論文作法研究

榎本恒太郎先生著・46版 280P ¥1,80 ㊦8

~~~~~  
◇佛蘭西語動詞及び前置詞の研究

馬屋原實先生著・36版 380P ¥2,00 ㊦8

~~~~~  
◇佛蘭西語急速暗記カード

宮下重夫先生考案・カード 574枚 ¥1,30 ㊦14

~~~~~  
◇佛文和語  
和文佛語  
佛文法初年生の佛蘭西語

鈴木信次郎先生著・46版 330P ¥1,70 ㊦10

~~~~~  
◇佛蘭西語 a b c の読み方から

桃井鶴夫先生著・46版 270P ¥1,30 ㊦8

~~~~~  
◇「カナ付き」佛和新辭典

井出利一先生著・ポケット形 450P ¥1,20 ㊦4

---

---

(出版目録送呈す)

---

---

◇自修新ロシヤ語

八杉貞利先生著・46版 687P ¥3,50 ㊦14

~~~~~  
◇佛文和語  
和文佛語  
ロシヤ文法初年生のロシヤ語

坂本盛太郎先生著・46版 340P ¥1,80 ㊦10

~~~~~  
◇「カナ付き」露和新辭典

太陽堂編集部編纂・ポケット形 380P ¥1,80 ㊦6

~~~~~  
◇イアルサン支那語一二三の読み方から

江口良吉先生著・46版 350P ¥1,80 ㊦10

~~~~~  
◇袖珍支那語速習

宮越教授・内宮教授共著・36版 285P ¥1,30 ㊦8

~~~~~  
◇エスペラント急速暗記カード

石黒修先生著・カード 607枚 ¥1,30 ㊦14

~~~~~  
◇「カナ付き」エス和新辭典

石黒修先生著・ポケット形 530P ¥1,50 ㊦6

~~~~~  
◇エスペラント a b c の読み方から

石黒修先生著・46版 254P ¥1,30 ㊦8

---

---

(出版目録送呈す)

---

---

◇ 工學英語解釋研究

坪井教授・岡部教授共著・46版 370P ¥2,50 ㊦12

~~~~~

◇ 工學獨逸語解釋研究

坪井教授・市瀬教授共著・46版 345P ¥2,50 ㊦12

~~~~~

◇ 化學獨逸語解釋研究

橋本教授・星野教授共著・46版 370P ¥2,50 ㊦12

~~~~~

◇ ザ・エッセンス・オブ・グレート・イングリッシュ・エコノミスト(英文)

松本環先生著・46版 280P ¥1,50 ㊦8

~~~~~

~~~~~

◇ 佛英和新辭典

榎本恒太郎先生著・36版 550P ¥2,50 ㊦10

~~~~~

◇ 獨英和新辭典

榎本先生・黒塚先生共著・36版 550P ¥2,50 ㊦10

~~~~~

---

---

(出版目錄送呈す)

34B  
549

終